

東京都薬剤師会 平成29年度事業報告

平成29年度は、「経済財政運営と改革の基本方針 2017(骨太の方針 2017)」の中の、健康・予防分野の需要喚起の項で、「生涯現役社会」の実現に向けて、国民一人ひとりが生活の質(QOL)を高め健康寿命を延ばせるよう、ICT やデータを活用した健康・予防サービスへの更なる需要拡大を図ることが示された。一方、「患者のための薬局ビジョン」の中では、薬局のあるべき姿として、かかりつけ薬剤師・薬局機能、健康サポート機能、高度薬学管理機能の三つの機能が示され、健康サポート薬局の取組が推進されている。このように、薬剤師・薬局には、「かかりつけ」としての機能と役割を發揮するとともに、地域住民の健康の相談役として、健康寿命の延伸に貢献することが求められ、その取組が課題となっている。

東京都薬剤師会は、薬剤師職能団体として、薬剤師でなければできないことは薬剤師の責任のもとで進め、その一方で、他の職能団体との連携をさらに密にしつつ、都民から真に必要とされる、かかりつけ薬剤師・薬局を目指した事業を展開する中、東京という地域で、眞の意味での医薬分業の実現を念頭に『薬剤師の能力と薬局機能の向上を目指して』を平成29年度の活動テーマに掲げ、会務の運営に取り組んだ。

先ず、職能団体の重要な役割である、薬剤師の知識・技能の研鑽については、「患者のための薬局ビジョン」を踏まえた、かかりつけ薬剤師育成事業の実施、健康サポート薬局育成研修の実施のほか、認定実務実習指導薬剤師の養成及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた薬局実務実習の対応に関する講習会の開催をはじめ、各種研修会・講習会を実施した。

また、薬局・薬剤師の災害対応力の向上を図るため、災害時薬事活動リーダー研修や薬局災害対策講習会の開催、防災訓練への参加協力等を行った。

さらに、一昨年発表された「東京都地域医療構想」の中では、地域包括ケアシステムにおける、かかりつけ薬剤師・薬局の果たすべき役割として、在宅療養患者支援の充実等が明記された点等も踏まえ、平成29年度も「健康情報拠点推進事業」「医療・介護総合確保法に基づく基金事業」として、在宅における「薬剤師のニーズの掘り起こし」「人材の養成」を目的とした事業を実施した。

東京都薬剤師会が総力を挙げて開催に取り組んだ第50回日本薬剤師会学術大会には、全国各地及び近隣諸外国から多くの薬剤師等に参加いただき、50回という歴史的な節目を飾る、かつてない濃厚な内容と規模の大会とすることことができた。

以上の重点事項の他、東京都ならびに国の進める様々な医療施策や保健医療計画等が各地域で確実に実施されるよう、都を通じて区市町村に対しても働きかけを行うと共に、地区薬剤師会の活動を支援し、組織のより強固な基盤の確立を目指すことで、都民の健康な生活とそれを支える安心・安全な医薬品の使用・供給を確保するため、以下に示す各事業を行った。

第1 一般会務報告

1. 会員数 7,143名(平成30年3月末日現在)

【資料1】

2. 会議等開催状況

(1) 総会(第91回通常総会、第92回臨時総会)	2回
(2) 総会議事運営委員会	4回
(3) 役員選挙管理委員会	2回
(4) 代議員選挙管理委員会	1回
(5) 東京選挙区日薬代議員打合せ会	2回
(6) 「都薬功労賞」授賞者選考委員会	1回
(7) 賀詞交歓会(平成29年度各賞受賞者祝賀会)	1回
(8) 地区及び職域薬剤師会会长会	11回
(9) 業界紙(誌)共同取材・定例記者会見	11回
(10)理事会	24回
(11)会長・業務執行理事打合せ会	22回
(12)正副会長打合せ会	7回
(13)担当役員会	6回
(14)常置委員会(小委員会含む)	72回
(15)特別委員会(小委員会含む)	16回
(16)第50回日本薬剤師会学術大会関連打合せ会	16回
(17)監事監査会	4回
(18)顧問・相談役会	2回
(19)都薬共済会監査会	1回
(20)薬事衛生自治指導員全体講習会	1回
(21)薬学講習会	1回
(22)基準薬局中央研修会	1回
(23)かかりつけ薬剤師研修会	1回
(24)薬局業務研修会	1回
(25)臨床薬学講座	2回
(26)管理薬剤師研修会	4回
(27)登録販売者研修会	3回
(28)高度管理医療機器等営業所管理者継続研修会	1回
(29)医療保険地区指導者養成講座	1回
(30)医薬分業地区指導者会議	1回
(31)医療保険地区指導者研修会	1回

(32) 調剤報酬改定伝達講習会	3回
(33) 「実務実習受入薬局」伝達講習会	1回
(34) 薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議	2回
(35) 関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (練習会含む)	4回
(36) 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ (練習会含む)	14回
(37) 認定実務実習指導薬剤師更新講習会	1回
(38) 方略を見直した試行的実習実施のための説明会	2回
(39) 学校薬剤師東京ブロック連絡会議	1回
(40) 公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会	2回
(41) アンチ・ドーピング活動地区薬剤師会指導者講習会	1回
(42) 禁煙支援薬剤師認定審査会	2回
(43) 薬局・薬剤師在宅療養支援促進事業 無菌調製技能習得研修会(講義・実習)	6回
(44) 東京都・調布市合同総合防災訓練	1回
(45) 東京都薬局災害対策講習会	1回
(46) 災害時薬事活動リーダー研修会	2回
(47) 訪問看護ステーション・ケアマネジャー・医療機関等との 連携による在宅医療服薬支援事業関係者連絡会	2回
(48) 在宅医療支援事業 地区関係者連絡会	5回
(49) 在宅医療・介護地区担当者会議	1回
(50) 在宅療養多職種連携研修会	1回
(51) 認知症サポート薬剤師e-ラーニング講座 スクーリング	1回
(52) 地区薬剤師会における健康サポート薬局に係る技能習得型研修 《研修会A》	1回
(53) 健康サポート薬局のための技能習得型研修《研修会A》	1回
(54) 健康サポート薬局のための技能習得型研修《研修会A》 (地域単位)	4回
(55) 健康サポート薬局のための技能習得型研修《研修会B》	1回
(56) 健康サポート薬局のための技能習得型研修《研修会B》 (地域単位)	4回
(57) 「かかりつけ薬局育成事業」編集会議	9回
(58) 医薬品流通のための連絡協議会	1回
(59) 薬・薬連携シンポジウム	1回
(60) 東京都薬剤師認知症対応力向上研修	1回

3. 役員の公的機関等への参画

【東京都福祉保健局 関連】

東京都医療審議会 : 石垣会長
東京都薬事審議会 : 石垣会長
東京都国民健康保険運営協議会 : 石垣会長
第52回献血運動推進全国大会実行委員会 : 石垣会長
東京都介護保険審査会 : 大木副会長
東京都糖尿病医療連携協議会 : 大木副会長
東京都災害医療協議会 : 永田副会長
救急医療対策協議会 : 永田副会長
東京都医療費適正化計画検討委員会 : 永田副会長
東京都感染症医療体制協議会 : 永田副会長
東京都保健医療計画推進協議会 : 永田副会長
東京都地域医療構想策推進協議会 : 永田副会長
東京都エイズ専門家会議 : 明石副会長
東京都健康推進プラン21(第二次)推進会議 : 一瀬常務理事
医薬分業に関する協議会 : 一瀬常務理事
東京都要保護児童対策地域協議会代表者会議 : 上野常務理事
東京都地域医療構想調整会議 区西北部 : 上野常務理事
東京都アレルギー疾患対策検討委員会 : 小野常務理事
東京都感染症医療体制ブロック協議会 区南部・区西南部 : 小野常務理事
東京都地域医療構想調整会議 区南部 : 小野常務理事
自殺総合対策東京会議 : 小野常務理事
東京都在宅療養推進会議 : 高松常務理事
東京都特殊疾病対策協議会 在宅療養・医療連携支援対策部会 : 高松常務理事
東京都感染症医療体制ブロック協議会 区西部・区西北部 : 高松常務理事
東京都地域医療構想調整会議 区西部 : 高松常務理事
東京都難病対策地域協議会 : 高松常務理事
東京都医療安全推進協議会 : 松本常務理事
医療情報に関する理解促進委員会 : 松本常務理事
東京都結核対策技術委員会 : 松本常務理事
東京都食品安全情報評価委員会「健康食品」による健康被害事例専門委員会
: 松本常務理事
東京都地域医療構想調整会議 北多摩北部 : 松本常務理事

東京都高齢者保健福祉施策推進委員会：森田常務理事
東京都高齢者保健福祉計画策定委員会：森田常務理事
東京都災害時こころのケア体制(東京 DPAT)連絡調整会議：森田常務理事
在宅医療廃棄物の適正処理に関する意見交換会：森田常務理事
東京都障害者差別解消支援地域協議会：山田常務理事
東京都地域医療構想調整会議 西多摩：山田常務理事
東京都がん対策推進協議会：阿部理事
精神疾患地域医療連携協議会：阿部理事
東京都地域医療構想調整会議 北多摩南部：阿部理事
東京都地域医療構想調整会議 区西南部：佐藤理事
東京都地域医療構想調整会議 南多摩：関根理事
南多摩地域保健医療協議会：関根理事
東京都大気汚染医療費助成制度検討委員会：龍岡理事
東京都感染症医療体制ブロック協議会 区中央部・区東北部：龍岡理事
東京都地域医療構想調整会議 区中央部：龍岡理事
東京都社会福祉審議会臨時委員(身体障害者福祉分科会)：西澤理事
東京都地域医療構想調整会議 区東北部：西澤理事
東京都災害時こころのケア体制(東京 DPAT)連絡調整会議作業部会：根本理事
東京都地域医療構想調整会議 北多摩西部：根本理事
東京都地域医療構想調整会議 区東部：濱野理事

【東京都病院経営本部】

東京都保健医療公社評議員：永田副会長
東京都立東部療育センター運営協議会：藤田副会長
東部地域病院運営協議会：西澤理事
東京都都立墨東病院運営協議会：濱野理事

【東京都総務局】

東京都防災対策推進 WG(危機管理対策 WG ソフト対策)：永田副会長

【青少年治安対策本部】

東京都子供応援協議会：石垣会長・上野常務理事
中学生の職場体験推進協議会：上野常務理事

【関連団体】

一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問
：石垣会長

第20回日本医薬品情報学会総会・学術大会 組織委員：石垣会長

第6回日本くすりと糖尿病学会学術集会組織委員会：石垣会長・大木副会長

東京都医師会 東京都糖尿病対策推進会議：大木副会長

東京都国民健康保険団体連合会介護給付費審査委員会：大木副会長

高齢者医薬品適正使用ガイドライン作成ワーキンググループ：大木副会長

関東信越地方保険医療協議会臨時委員：永田副会長

社会保険診療報酬支払基金東京支部幹事会参与：永田副会長

東京都社会保険診療報酬請求書審査委員会学識経験者審査委員選考協議会
：永田副会長

東京都保険者協議会：永田副会長

東京都国民健康保険団体連合会診療報酬審査支払業務運営協議会：永田副会長

東京都医師会 地域包括ケア委員会：上野常務理事

東京都医師会 東京都多職種連携連絡会：上野常務理事

OTC医薬品とセルフメディケーションに関する普及啓発イベント
「よく知って正しく使おうOTC医薬品」実行委員会：小野常務理事

日本薬学会関東支部市民講座企画委員：小野常務理事

区西部緩和ケア推進事業運営委員会：高松常務理事

日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度委員：松本常務理事

一般社団法人薬学教育評価機構 評価実施員：山田常務理事

薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構：山田常務理事

東京都後期高齢者医療懇談会：龍岡理事

東京都医師会 タバコ対策委員会：龍岡理事

以上のとおり、会長はじめ各役員は本会執行部として業務の遂行に努めるとともに、東京都の審議会・協議会等の公的機関さらには社会保険・国民健康保険等の委員として、それぞれの機関の運営に参画し、薬剤師職能の充実に努めた。

第2 事業活動の概要

1. 薬剤師倫理規定並びに薬事・医療関連法規の趣旨の周知徹底

一般用医薬品等の適正使用の推進及び供給体制整備の周知・徹底をはかるため、医薬品医療機器等法改正の動向に対応した資料を作成し配布すると共に各種講習会(薬事衛生自治指導員全体講習会、基準薬局中央研修会、地区薬剤師研修会、管理薬剤師研修会、高度管理医療機器等営業所管理者継続研修会)など、機会を捉え情報発信に努めた。また同様に薬剤師としての倫理及び薬事・医療関連法規の趣旨の周知を図った。

2. 薬剤師職能及び薬局機能対策

2-1 薬剤師資質向上対策(薬学振興対策)

(1)「患者のための薬局ビジョン」を踏まえた、かかりつけ薬剤師育成事業の実施

医薬品の適正使用のみならず公衆衛生の向上及び健康な生活の確保ための情報提供や相談窓口となるなど「かかりつけ薬局」及び「かかりつけ薬剤師」の定着を図ることを目的に平成12年度以来毎年開催している「かかりつけ薬局研修会」について、研修内容の実情と整合性を図り、29年度より「かかりつけ薬剤師研修会」に名称を変更し開催した。

【かかりつけ薬剤師研修会】

期 日：平成29年11月12日(日) 12:30～16:00

場 所：よみうりホール

受講者：912名(内、会員外 18名)

内 容：

挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

かかりつけ薬剤師と薬局ビジョンのKPI—処方の再設計と多職種連携—

東京大学大学院医学系研究科 地域医薬システム学講座 教授 今井 博久

薬局・薬剤師を取り巻く最近の動き～健康サポート薬局の現状と省令改正～

東京都福祉保健局健康安全部 薬事監視担当課長 河野 安昭

患者のための薬局ビジョン及び健康サポート薬局の実現に向けて

～地域包括ケアシステムにおける薬剤師の役割について考える～

日本薬剤師会 常務理事 吉田 力久

(2) 禁煙支援薬剤師認定制度の推進

平成 23 年 10 月より、e-ラーニングを活用した都薬独自の禁煙支援薬剤師認定制度の運用を開始し、平成 30 年 3 月末時点で 313 名の受講申込があった。また、平成 29 年 8 月に第 12 回、平成 30 年 2 月に第 13 回認定審査会を開催し、これまでに禁煙支援薬剤師として計 54 名を認定した。

(3) e-ラーニングの利用を含めた都薬独自の生涯学習プログラムの検討

平成 27 年から禁煙支援薬剤師認定制度に続く生涯学習プログラムとして、「認知症サポート薬剤師 e-ラーニング講座」を都薬ホームページ上で運営している。

これまでに、さらに学びを深め、認知症サポーターとしての知識を習得することを目標としたスクーリングを 2 回実施しているが、平成 29 年度は日本薬剤師会学術大会の分科会のひとつとしてスクーリングを開催し、全国から受講者を募った。

【認知症サポート薬剤師 e-ラーニング講座スクーリング(全国版)】

期 日：平成 29 年 10 月 9 日(月・祝) 12:00～15:00

場 所：第 50 回日本薬剤師会学術大会 第 18 会場 (JP タワー4 階ホール 1)

受講者：37 名

内 容：

講演 1 「東京都の認知症施策について」

東京都福祉保健局高齢社会対策部 認知症対策担当課長 上野 瞳子

グループ討議 I 「分かち合おう！ 困りごと、うまくいったこと」

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 高田めぐみ

講演 2 「『何が起き、何が必要か』わたしに聴いて

－役立つ施策や支援を本人とともにつくろう－」

日本認知症ワーキンググループ NPO 法人 ともに歩む認知症の会・

茨城メンバー：平 みき／パートナー：柏木 とき江

グループ討議 II 「認知症(疑いのある)患者さんやご家族に対して、薬剤師

としてもっとできること、してみたいこと。」

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 高橋 たつ子

閉会挨拶及び修了証授与

東京都薬剤師会 副会長 明石 貴雄

(4) 日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)の利用推進

平成 24 年 4 月より、日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)がスタートした。平成 26 年 5 月には、JPALS のポートフォリオ(実践記録)の記載をより容易とするために「実践記録シート」を作成して都薬ホームページ上に掲載し、地区薬剤師会にもその活用を促している。本会で開催する主な講習会においては、プログラム等に

JPALS コードを記載し、また、「実践記録シート」を配布するなど、JPALS 利用者の利便を図るよう努めた。

(5)薬学講習会など各種講習会の開催

①臨床薬学講座の開催

平成 29 年度の臨床薬学講座は、平成 28 年度に引き続き少人数による実習中心の研修会を 2 回開催した。

【第 1 回臨床薬学講座】

期 日：平成 29 年 7 月 23 日(日) 13:00～18:20

場 所：都薬会館 3 階会議室

受講者：24 名

内 容：テーマ「薬剤師に必要なフィジカルアセスメントの考え方と実践」

<講義>

薬剤師のためのフィジカルアセスメント

東京 医科大学病院 総合診療科 臨床教授 平山 陽示

薬局薬剤師がフィジカルアセスメントを学ぶ意義

品川薬剤師会 会長 加藤 肇

<実習>

疾患シミュレーターを用いたフィジカルアセスメント研修

昭和大学薬学部 社会健康薬学講座 医薬品評価薬学部門 准教授 亀井 大輔

昭和大学薬学部 病院薬剤学講座 助教 高田 昂輔

【第 2 回臨床薬学講座】

期 日：平成 29 年 12 月 3 日(日) 13:00～17:00

場 所：都薬会館 3 階会議室

受講者：30 名

内 容：テーマ「嚥下機能評価を薬学的管理につなげるには」

<講義>

頸部聴診法と嚥下スクリーニング検査について

昭和大学歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座

口腔リハビリテーション医学部門 講師 横山 薫

助教 野末 真司

助教 湯浅 研

簡易懸濁法について

東京都薬剤師会 学術委員会 副委員長 近藤 幸男

社会福祉法人東京有隣会 有隣病院 薬事科 主任 奥野 靖隆

<実習>

1. 医師が実践している嚥下機能評価の理解について
2. 半固体形状流動食の作り方及び簡易懸濁法について

東京都薬剤師会 学術委員会 副委員長 近藤 幸男

社会福祉法人東京有隣会 有隣病院 薬事科 主任 奥野 靖隆

②薬学講習会の開催

平成 29 年度は、偽造医薬品をテーマに薬学講習会を下記のとおり開催した。

薬局における医療安全管理については、薬局ヒヤリ・ハット事例から考える医療安全についての講演、今年度、東京で開催される第 50 回日本薬剤師会学術大会についての講演が行われた。

【薬学講習会】

期 日：平成 29 年 8 月 27 日(日) 14:00～17:25

場 所：東京国際フォーラム ホール A

受講者：1,742 名(うち会員外 152 名)

内 容：

挨拶

東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

最近の薬事行政について

東京都福祉保健局健康安全部 薬務課長 早乙女 芳明

流通医薬品の品質確保

金沢大学名誉教授研究員 木村 和子

医療安全管理講座/薬局ヒヤリ・ハット事例から考える医療安全

公益財団法人日本医療機能評価機構

医療事故防止事業部 部長 坂口 美佐

第 50 回日本薬剤師会学術大会 東京大会について

東京都薬剤師会 副会長 大木 一正

③基準薬局中央研修会の開催

下記により平成 29 年度基準薬局中央研修会を開催した。

今年度は、テロの未然防止に向けて、薬局における不審な購入者への対応について、薬事制度の改正、健康サポート薬局の現状等について、臨床推論とはなにか、薬剤師が臨床推論でできることについての講演を行った。

【基準薬局中央研修会】

期 日：平成 29 年 7 月 2 日(日) 12:30～15:50

場 所：文京シビックホール 大ホール

受講者：1,389名（うち会員外 47名）

内 容：

時局解説

東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

国際テロ情勢と対策～官民一体となったテロ未然防止について～

警視庁 三浦 健也

最近の薬事行政について

～医薬品販売制度と健康サポート薬局の現状について～

厚生労働省 医薬・生活衛生局 総務課 課長補佐 勝山 佳菜子

実践！薬学臨床推論

東京医科大学病院 薬剤部 東 加奈子

第50回日本薬剤師会学術大会 東京大会について

東京都薬剤師会 副会長 大木 一正

(6)認定実務実習指導薬剤師の養成及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム への対応

薬学教育 6年制課程における長期実務実習を適切に実施するため、受入施設及び学生を指導する指導者の資質向上と確保が重要であるとの認識のもと、安定した受入れ体制の維持を図ることを目的に、今年度も本会では、(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構をはじめとする種々の教育関連機関と連携して事業を遂行した。

平成31年より開始される改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習の円滑な実施に向けて、学習成果基盤型教育(Outcome-Based Education、以下「OBE」)に基づく認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ)と、既に認定を取得した認定実務実習指導薬剤師を対象とした、OBE修得のためのアドバンストワークショップを今年度も引き続き実施する旨等に関する薬学教育協議会からの協力依頼を受け、本会では、関東地区調整機構の計画に基づき、「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」2回、「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ」9回を、関東地区調整機構や関東地区的各県薬剤師会・都県病院薬剤師会との共催で下記の通り開催した。

改訂モデル・コアカリキュラムに基づく「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」は、各都県単位ではなくブロック化を推進する関東地区調整機構の開催方針によって下記の通り第1回を関東地区調整機構・千葉県薬剤師会との共催で、第5回は関東地区調整機構からの実施運営委託を受け開催した。これにより平成17年度より実施された認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ)への参加者数は今年度までに延べ1,943名となった。今年度の認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにおいても、実習時のトラブルを事前に回避するこ

とを目的として本会が作成したリーフレット「薬局実習におけるハラスマント対策(2015年度改訂版)」を資料として配布した。

毎年開催している公益財団法人日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師認定制度実施要領に基づく、「認定実務実習指導薬剤師」の認定要件のひとつである講習会形式の研修 4 講座(講座ア・イ・ウ・オ)については、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに対応した講座内容への見直しが行われていることから、今年度は開催を見送ることとした。

なお、認定実務実習指導薬剤師の認定期間 6 年を満了する薬剤師を対象とした更新講習会(講座カ)は、例年通り下記の通り開催した。

OBE の理念に基づいた実務実習の在り方及びこれに基づいたカリキュラムプランニングの技法を修得する目的で行われる「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ」は、今年度、本会から 325 名、東京都病院薬剤師会から 166 名の認定実務実習指導薬剤師が参加し、研修を修了した。これにより平成 27 年度より実施された「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ」の修了者数は今年度までに延べ 534 名となった。今年度のアドバンストワークショップにおいても、文部科学省に設置されている「薬学実務実習に関する連絡会議」で示された「薬学実務実習に関するガイドライン」「実務実習実施計画書の記載事項について(例示)」「薬学実務実習の評価の観点について(例示)」を本会でまとめ印刷した冊子を受講者に配布した。

また、本会では、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習の対応として、昨年度に引き続き「方略を見直した試行的実習(OBEに基づいた実務実習)」を、今年度薬局実務実習受入れが決定している薬局で実施できるよう、「方略を見直した試行的実習実施のための説明会」(以下、「方略見直し実習説明会」と称す)を下記の通り 2 回開催した。本説明会では、平成 29 年度に薬学生を受入れる施設に勤務する全ての薬剤師、並びに大学の薬局実務実習担当教員を対象とし、第 1 回説明会では方略見直し実習の具体的な進め方について、第 2 回説明会では方略見直し実習の具体的な進め方に加えて「薬学実務実習に関する連絡会議」で示された「概略評価」について解説した。なお、説明会後に本会が実施したアンケート調査によると、方略見直し実習実施施設数は平成 28 年度第Ⅱ期 61 施設、第Ⅲ期 32 施設、平成 29 年度第Ⅰ期 117 施設で実施されている。

【第 1 回関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師のための アドバンストワークショップ(東京 第 1 回)】

期 日：平成 29 年 8 月 19 日(土) 9:00～20:00

平成 29 年 8 月 20 日(日) 9:00～18:00

場 所：日本大学 薬学部

共 催：(一社)千葉県薬剤師会／(公社)東京都薬剤師会／
(公財)日本薬剤師研修センター／(一社)薬学教育協議会／
(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構
コンサルタント：世田谷区保健センター 中島 宏昭
ディレクター：関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦、
日本大学 薬学部長 本橋 重康、
千葉県薬剤師会 会長 石野 良和
ディレクター兼タスクフォース：東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造
チーフタスクフォース：千葉県薬剤師会 杉山 宏之
タスクフォース：千葉県薬剤師会 8名、
東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 8名
受講者：54名(2P6S)のうち本会より 15名

【第5回関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師のための

アドバンストワークショップ(東京 第2回)】

期 日：平成30年1月7日(日) 9:00～20:10
平成30年1月8日(月・祝) 9:00～18:00
場 所：帝京大学薬学部 板橋キャンパス 大学棟
共 催：(公社)東京都薬剤師会／(公財)日本薬剤師研修センター／
(一社)薬学教育協議会／
(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構
コンサルタント：世田谷区保健センター 中島 宏昭
ディレクター：関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦、
帝京大学 薬学部長 栗原 順一
チーフタスクフォース：帝京大学 薬学部 小佐野 博史
タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 8名
関東地区薬剤師会・病院薬剤師会 13名
受講者：54名(2P6S)のうち本会より 11名

【第6回関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師のための

アドバンストワークショップ(東京 第3回)】

期 日：平成28年9月4日(日)9:55～18:25
場 所：星薬科大学 百年記念館
共 催：東京都薬剤師会・日本保険薬局協会
薬学教育協議会病院・薬局実務実習関東地区調整機構
実施運営：東京都薬剤師会
タスクフォース：東京都薬剤師会実務実習委員会 担当役員・委員 13名

受講者：60名(2P6S) 各地区薬剤師会 28名、東京都病院薬剤師会 12名
日本保険薬局協会 14名、東京都内大学 6名

【認定実務実習指導薬剤師 更新講習会】

期 日：平成 29 年 11 月 5 日(日) 10:00～12:00
場 所：北里大学薬学部 白金キャンパス 薬学部 2 号館 2201 講義室
共 催：(公社)東京都薬剤師会／(公財)日本薬剤師研修センター／
(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

受講者：69名

内 容：

開会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一
講座イ 「薬剤師に必要な理念について(平成 27 年版)」(ビデオ)
日本薬剤師会 会長 山本 信夫
講座力(更新講習)「改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムと新しい実務実習、
薬剤師に求められる基本的資質(平成 27 年版)」(ビデオ)
名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授 鈴木 国

【第 1 回 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ】

期 日：平成 29 年 4 月 23 日(日) 9:30～18:00
場 所：昭和薬科大学
共 催：(公社)東京都薬剤師会／(一社)薬学教育協議会／
(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構
ディレクター兼タスクフォース：東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造
チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一
タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 12 名、
東京都病院薬剤師会 1 名、昭和薬科大学 2 名

受講者：59名(2P6S)

各地区薬剤師会 36名、東京都病院薬剤師会 18名、東京都内大学 5名

【第 2 回 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ】

期 日：平成 29 年 4 月 29 日(土・祝) 9:00～18:05
場 所：帝京大学薬学部 板橋キャンパス 大学棟 3 階
共 催：(公社)東京都薬剤師会／(一社)薬学教育協議会／
(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構
ディレクター：関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦
ディレクター兼タスクフォース：東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造
チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一
タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 7 名、

東京都病院薬剤師会 2名、帝京大学 1名

受講者：60名(2P6S)

各地区薬剤師会 37名、東京都病院薬剤師会 18名、東京都内大学 5名

【第3回 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ】

期 日：平成29年4月29日(土・祝) 9:00～17:45

場 所：帝京大学薬学部 板橋キャンパス 大学棟4階

共 催：(公社)東京都薬剤師会／(一社)薬学教育協議会／

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦

東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員長 猿橋 裕子

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員8名、

東京都病院薬剤師会 2名、星薬科大学 1名

受講者：60名(2P6S)

各地区薬剤師会 36名、東京都病院薬剤師会 18名、東京都内大学 6名

【第4回 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ】

同日程で、帝京大学 大学棟3階において本会運営の第4回アドバンストワークショップを、また同大学 大学棟4階において(一社)埼玉県薬剤師会が運営する第5回アドバンストワークショップを開催したことから、それぞれの薬剤師会からのタスクフォース並びに参加者を混成して実施した。

期 日：平成29年4月30日(日) 9:00～18:00

場 所：帝京大学薬学部 板橋キャンパス 大学棟3階

共 催：(公社)東京都薬剤師会／(一社)薬学教育協議会／

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦

ディレクター兼タスクフォース：東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

第4回チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

第4回タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員6名、

東京都病院薬剤師会 1名、埼玉県薬剤師会 7名

第5回タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員5名、

東京都病院薬剤師会 1名、帝京大学 1名、

埼玉県薬剤師会 7名

受講者：第4回・第5回ともに60名(2P6S)

第4回：東京都薬剤師会 19名、東京都病院薬剤師会 9名、

埼玉県薬剤師会 18名、埼玉県病院薬剤師会 9名、大学 5名

第5回：東京都薬剤師会 18名、東京都病院薬剤師会 9名、
埼玉県薬剤師会 18名、埼玉県病院薬剤師会 9名、大学 6名

【第6回 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ】

期 日：平成29年5月3日(水・祝) 9:00～18:00

場 所：帝京平成大学 中野キャンパス

共 催：(公社)東京都薬剤師会／(一社)薬学教育協議会／

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦

ディレクター兼タスクフォース：東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 10名、

東京都病院薬剤師会 2名、星薬科大学 1名

受講者：59名(2P6S)

各地区薬剤師会 38名、東京都病院薬剤師会 18名、東京都内大学 3名

【第23回 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ】

期 日：平成30年2月11日(日・祝) 9:00～17:30

場 所：帝京大学薬学部 板橋キャンパス 大学棟3階

共 催：(公社)東京都薬剤師会／(一社)薬学教育協議会／

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦

帝京大学 薬学部長 栗原 順一

ディレクター兼タスクフォース：東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 12名、

神奈川県薬剤師会 1名、茨城県病院薬剤師会 1名

受講者：59名(2P6S)

各地区薬剤師会 35名、東京都病院薬剤師会 19名、東京都内大学 5名

【第24回 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ】

期 日：平成30年2月11日(日・祝) 9:00～17:30

場 所：帝京大学薬学部 板橋キャンパス 大学棟4階

共 催：(公社)東京都薬剤師会／(一社)薬学教育協議会／

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦

帝京大学 薬学部長 栗原 順一

東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 高松 登
タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 8名、
神奈川県薬剤師会 2名、埼玉県薬剤師会 2名、
茨城県薬剤師会 1名、帝京大学 1名

受講者：59名(2P6S)

各地区薬剤師会 36名、東京都病院薬剤師会 19名、東京都内大学 4名

【第25回 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ】

期 日：平成30年2月12日(月・振) 9:00～17:35

場 所：帝京大学薬学部 板橋キャンパス 大学棟3階

共 催：(公社)東京都薬剤師会／(一社)薬学教育協議会／

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦

ディレクター兼タスクフォース：東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 高松 登

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 9名、

神奈川県薬剤師会 2名、帝京大学 1名

受講者：60名(2P6S)

各地区薬剤師会 36名、東京都病院薬剤師会 19名、東京都内大学 5名

【第26回 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ】

期 日：平成30年2月12日(月・振) 9:00～17:25

場 所：帝京大学薬学部 板橋キャンパス 大学棟4階

共 催：(公社)東京都薬剤師会／(一社)薬学教育協議会／

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦、

東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 11名、

神奈川県薬剤師会 1名、埼玉県薬剤師会 1名、

茨城県薬剤師会 1名

受講者：58名(2P6S)

各地区薬剤師会 34名、東京都病院薬剤師会 19名、東京都内大学 5名

【第1回 方略を見直した試行的実習実施のための説明会】

期 日：平成29年4月6日(木) 19:00～20:40

場 所：日本教育会館 8階 第一會議室

出席者：282名(各地区エリア受入施設の指導薬剤師等 251名、

関東地区 23 大学のうち都内に薬学生を割振る 20 大学※の
薬局実務実習担当教員 31 名

※参加大学：高崎健康福祉大学、城西大学、日本薬科大学、
城西国際大学、千葉科学大学、千葉大学、東京理科大学、
東邦大学、日本大学、北里大学、慶應義塾大学、昭和大学、
昭和薬科大学、帝京大学、帝京平成大学、東京薬科大学、
星薬科大学、武藏野大学、明治薬科大学、横浜薬科大学

内 容：

開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一
平成 31 年からの改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習の
実施に向けて～方略を見直した薬局実務実習の試行的実施について～
東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造
『薬局薬剤師のための薬学生実務実習指導の手引き改訂版』の使用方法と
実習の進め方について 東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一
方略を見直した試行的実習の実施に関する質疑応答
閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

【第 2 回 方略を見直した試行的実習実施のための説明会】

期 日：平成 29 年 8 月 5 日（土） 18:45～20:45
場 所：渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール
出席者：262 名
各地区エリア受入施設の指導薬剤師等 244 名、
東京都内 11 大学のうち 9 大学※の薬局実務実習担当教員 15 名、
日本保険薬局協会 3 名
※参加大学：北里大学、慶應義塾大学、昭和大学、昭和薬科大学、
帝京大学、帝京平成大学、東京薬科大学、星薬科大学、武藏野大学

内 容：

改訂コアカリで求められる実務実習に向けて～『改訂版手引き』を利用した
実習の進め方～ 東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一
薬学実務実習に関する連絡会議で示された実務実習実施計画書・評価の観点
について 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造
現行の実務実習モデル・コアカリキュラムに基づく評価について
東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造
方略を見直した試行的実習の実施に関する質疑応答
閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

(7) 地区薬剤師研修会への支援

都民からの相談機能の向上を図るため、主に地域の薬局・薬剤師の機能と役割として、在宅、高齢者対策、多職種連携等に関する臨床薬学講習及び保険講習に加えて、東京オリンピック、パラリンピックに向けたアンチドーピング対策等を講習内容とする「地区薬剤師研修会」が28地区で各2回開催され、「都薬アワー」に講師を派遣するとともに開催経費の助成を行った。

「都薬アワー」では、第1回地区薬剤師研修会に、平成29年度活動テーマ「薬剤師の能力と薬局機能の向上を目指して」を基に「薬剤師・薬局業務の再点検」、「薬局における医療用医薬品の譲受・譲渡について」として、かかりつけ薬剤師・薬局の持つべき機能及び薬局における医療用医薬品の譲受・譲渡に関するガイドラインの解説を行った。また第2回地区薬剤師研修会では、カラーテキストを用いて、「骨太の方針・未来投資戦略について」、「地域包括ケアシステムに対応したかかりつけ薬剤師・薬局」、「個人情報保護法への対応について」など、今後の当会の取組み等を説明したほか、2025年度を見据えて、データヘルスや予防等を通じて国民のQOLの向上、国民皆保険、皆年金等の社会保障制度の次世代への引き渡しについて詳しく解説を行った。その際、統一テキストや配布資料を作成して研修を行った。

開催地区及び各研修会の参加人数等は【資料2】のとおりである。

2-2 薬局機能の充実対策

(1) 健康サポート薬局へ向けた、かかりつけ薬局育成事業の実施

(2-1 (1) 「患者のための薬局ビジョン」を踏まえた、かかりつけ薬剤師育成事業の実施の項を参照)

(2) 基準薬局の新たな認定

制度発足以来、基準薬局制度は薬局並びに薬剤師の医薬分業推進活動の基盤を担ってきたが、日薬は平成27年3月末日をもって基準薬局制度を発展的に解消した。しかし、当会では、これまで日薬の基準に加え独自の基準を定めて、基準薬局中央研修会等を開催し、都内の薬局に対して認定取得の推進、指導を行ってきた。また、地域医療に貢献できる医療提供施設としての標準的な薬局の姿を社会に示し推進していくことは、これからも大変重要であると考えられるため、今後も当会として基準薬局制度を堅持していくこととした。「薬局の求められる機能とあるべき姿」に対応した認定基準により、622薬局の認定を行った。前年度に比べ44薬局の減少となった。

また、平成29年度基準薬局中央研修会を開催した(2-1(5)③「平成29年度基準

薬局中央研修会の開催」の項を参照)。

(3) 実務実習受け入れ態勢の整備

実務実習受け入れ態勢整備の強化を図るため、各エリアの実務実習受入責任者・担当者を対象に、下記のとおり「薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議」を開催した。

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム(以下、改訂コアカリと称す)に準拠した薬局実習の第Ⅰ期が平成31年2月より開始されることから、平成31年度 薬局実習受入施設の調査依頼が早まり、今年度はエリア担当者会議を2回開催した。

第1回エリア担当者会議では、例年実施している関東地区調整機構依頼の平成30年度実務実習受入施設調査の説明に加え、各エリアの連携を深め、また平成31年から実施される改訂コアカリに基づく実務実習への円滑な移行に向けた関東地区調整機構の取り組みや今後のスケジュール、参加体験型実習の実施や概略評価等について説明した。

第2回エリア担当者会議では、平成31年度実務実習受入施設調査における変更点や新たな薬局割振りの流れなどについて説明があり、改訂コアカリに準拠した実務実習へと円滑に移行されるよう平成30年度の方略見直し実習(概略評価の先行導入)の実施予定や、都薬の取組みを紹介するとともに、エリアの役割を再確認いただいた。

平成30年度に薬局実務実習受入れが決定している施設の指導薬剤師を対象とした「実務実習受入薬局伝達講習会」を下記のとおり開催した。本講習会では、薬学生を受入れるに当たり、各エリアや受入薬局で行う準備や注意事項の伝達を行うとともに、平成31年2月からの改訂コアカリに準拠した実務実習を適切に実施いただくことを目的とし、方略見直し実習の具体的な実施方法や概略評価に関する説明、また大学主導となる薬局と病院の連携など、平成31年に向けた今後のスケジュールや指導薬剤師の役割について解説した。本講習会には、平成30年度薬局実務実習受入薬局の指導薬剤師をはじめ、各エリアの実務実習受入責任者やエリア事務局担当者、並びに各大学との情報の共有を図る目的で関東地区23大学の薬局実務実習担当教員を招き、伝達した。本伝達講習会においても、「薬学実務実習に関する連絡会議」で示された「薬学実務実習に関するガイドライン」「実務実習実施計画書の記載事項について(例示)」「薬学実務実習の評価の観点について(例示)」を本会でまとめ印刷した冊子を配布した。

【第1回 薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議】

期 日：平成29年7月13日(木) 18:30～20:50

場 所：フォーラムミカサエコ 7階ホール

出席者：地区薬剤師会会长、各エリア実務実習受入責任者・担当者 61名

内 容：

開会挨拶

東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

平成 30 年度 薬局実習受入施設調査及び伝達事項について

東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員長 猿橋 裕子
改訂コアカリに基づく実務実習に向けた関東地区調整機構の取り組みと

今後のスケジュール 関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦
改訂モデル・コアカリキュラムに基づいた薬局実習に向けて

東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

平成 30 年度からの実習受入れに関する質疑応答

閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

【第 2 回 薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議】

期 日：平成 30 年 3 月 4 日(日) 10:30～12:25

場 所：星薬科大学 新星館 2 階 206 講義室

出席者：地区薬剤師会会长、各エリア実務実習受入責任者・担当者 60 名

内 容：

開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

改訂コアカリに準拠した実務実習に向けた関東地区調整機構の取組みとお願い

関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦

平成 31 年度 薬局実習受入施設調査及び伝達事項について

東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

今後のスケジュールとエリア担当者の役割 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

質疑応答

閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

【「平成 30 年度 実務実習受入薬局」伝達講習会】

期 日：平成 30 年 3 月 4 日(日) 13:30～16:05

場 所：星薬科大学 本館メインホール

受講者：379 名

各地区エリア受入施設の指導薬剤師等 347 名、

関東地区 23 大学のうち 20 大学※の薬局実務実習担当教員 32 名

※参加大学：国際医療福祉大学、城西大学、日本薬科大学、

城西国際大学、千葉大学、東京理科大学、東邦大学、日本大学、

北里大学、慶應義塾大学、昭和大学、昭和薬科大学、帝京大学、

帝京平成大学、東京大学、東京薬科大学、星薬科大学、武藏野大学、

明治薬科大学、横浜薬科大学

内 容：

開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

改訂コアカリに準拠した実務実習に向けた関東地区調整機構の取組みとお願い

関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦

改訂コアカリに基づく実務実習における薬局と病院の連携について

－星薬科大学における準備状況－

東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 浅井 和範

方略を見直した試行的実習報告と実務実習受入れに関する注意事項

東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員長 猿橋 裕子

より効果的な実習のために 東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 宮岡 陽子

OBEに基づいた薬局実務実習と『薬局実務実習指導の手引き 2018年版』

について

東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

今後のスケジュールと指導薬剤師の役割 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

質疑応答

閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

(4)薬局業務研修会(旧:調剤実務研修会)の実施

これまで「調剤実務研修会」という名称で研修会を開催してきたが、研修内容の実情と整合性を図り、今年度より「薬局業務研修会」と名称を変更し、下記のとおり開催した。前年度より健康サポート薬局が実施されたが、健康サポート薬局を申請する薬局はそう多くない現状があることから、健康サポート薬局の立ち上げに必要な手順書の作成、健康講座、多職種連携について、また、患者のための薬局ビジョン実現に向けて、かかりつけ薬剤師・薬局の目指すべき姿について講演が行われた。

【薬局業務研修会】

期 日 : 平成 30 年 1 月 28 日(日) 12:30~16:00

場 所 : 日本教育会館一ツ橋ホール

受講者 : 622 名(うち会員外 17 名)

内 容 :

挨拶 東京都薬剤師会 副会長 藤田 義人

健康サポート薬局たちあげの 2 つのキーアクション

～手順書の作成と継続的な健康講座を具体的に学ぶ～

ケイ薬局 宮原 富士子

多職種連携に向けた薬剤師職能啓発について

上原薬局 上原 健嗣

『患者のための薬局ビジョン』実現に向けて ～かかりつけ薬剤師・薬局

の目指すべき職能・機能とは～ 東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

(5) 地域包括ケアシステムの構築に向けた多職種と連携した在宅医療・介護提供体制の推進

地域包括ケアシステムの構築が急がれるなか、地域支援事業における「在宅医療・介護連携推進事業」についての情報提供などを地区薬剤師会を通じて薬局あてに周知するとともに、事業実施報告も含め在宅医療・介護地区担当者会議を下記のとおり開催した。

平成 29 年度は、東京都からの依頼で「平成 29 年度薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」として、「訪問看護ステーション・ケアマネジャー・医療機関等との連携による在宅医療服薬支援事業」を前年同様 4 カ年目の最終年度事業として受託した。薬剤師による在宅医療における薬学的管理指導を推進し、関係職種の専門性を発揮することにより在宅医療の質の向上を図ることを目的として、文京区・世田谷区・足立区・青梅市・狛江市の 5 地区でモデル事業を実施した。

また、厚生労働省の「平成 29 年度薬局・薬剤師在宅療養支援促進事業」として、在宅医療基礎研修(無菌調製技能基礎研修)と地域薬局間連携研修(在宅医療連携研修並びに地域施設実地研修)並びに地域連携構築支援事業を東京都より前年同様に受託した。

無菌調製技能基礎研修では、星薬科大学・帝京大学・帝京平成大学の 3 大学において「無菌調製技能習得研修会」を開催し、各々 50 名が講義並びに実技の研修を行った。在宅医療連携研修では、在宅医療・介護地区担当者会議で事業の説明を行った後、在宅訪問薬剤管理指導にかかる地域薬局連携のための研修会を 36 地区薬剤師会で実施した。同じく地域施設実地研修では、無菌調剤室設置施設での実地調製研修を、29 地区薬剤師会で実施した。利用施設は薬局が 7 地区、地域病院が 21 地区、大学実習室が 1 地区であった。地域連携構築支援事業では、住民への啓発並びに連携促進を 34 地区薬剤師会が地区における地域包括支援センターと連携して実施した。

そのほか、研修会（3－2（1）「在宅薬剤管理業務の拡充のための調査・研修会の実施」の項を参照）の開催や、在宅訪問薬剤管理実施薬局検索サイト登録内容の追加・更新を毎月行った。現在 1,960 余薬局を登録している。また、無菌調製技能基礎研修受講者が在籍する薬局リストを作成して同サイトに掲載した。

地域薬局間連携研修と地域連携構築支援事業に関する開催地区及び各研修会の参加人数等は【資料 3】のとおりである。

【無菌調製技能習得研修会】

1. 星薬科大学における研修

期 日：講義 平成 29 年 8 月 6 日（日） 50 名受講

実習 平成 29 年 8 月 11 日（日） 50 名参加

場 所：星薬科大学

概 要 :

<8月6日(日) 講義>

開講にあたって 東京都福祉保健局健康安全部薬務課長 早乙女 芳明
星薬科大学 学長 田中 隆治
東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

在宅医療における無菌調剤の現状

心身障害児総合医療療育センター薬剤科長

板橋区薬剤師会 理事・HIP研究会 副会長 海老原 豪

輸液の基本知識 (株)大塚製薬工場 営業本部 学術部 植島 崇文

中心静脈栄養—中心静脈栄養(TPN)とは—

星薬科大学 薬学教育研究センター 実務教育研究部門 講師 湧井 宜行
無菌調製の基本的手技と注意点

星薬科大学 薬学教育研究センター 実務教育研究部門 准教授 町田 昌明

<8月11日(日) 実習> *実習講師: 11名(A班6名、B班5名)

1. 臨床実習室:

手洗い、手袋の脱着、アンプル、バイアル、シリンジの取扱い、

凍結乾燥品の取扱い、薬液の採取など

2. 無菌調製室(クリーンベンチ使用):

混合調製の実践(準備、手洗い、手袋装着、混合調製、鑑査、清掃)

3. 総括・修了証授与

2. 帝京大学における研修

期 日 : 講義 平成29年9月3日(日) 53名受講

実習 平成29年9月10日(日) 53名参加

場 所 : 帝京大学薬学部 板橋キャンパス

概 要 :

<9月3日(日) 講義>

開講にあたって 東京都福祉保健局健康安全部薬事監視担当課長 河野 安昭
帝京大学 薬学部 教授 渡辺 茂和
東京都薬剤師会 副会長 大木 一正

在宅医療における無菌調剤の現状

心身障害児総合医療療育センター薬剤科長

板橋区薬剤師会 理事・HIP研究会 副会長 海老原 豪

輸液の基本知識 (株)大塚製薬工場 営業本部 学術部 園田 景三

中心静脈栄養法(TPN)の基本 済生会横浜市東部病院 薬剤部 副部長 菅野 浩

注射剤の混合調製を始めるに際して 帝京大学 薬学部 教授 土屋 雅勇

<9月10日(日) 実習> *実習講師；11名(A班5名、B班5名、全体調整1名)

1. 薬学実習室3(調剤実習室)：

手洗い、手袋の脱着、アンプル、バイアル、シリソジの取扱い、

凍結乾燥品の取扱い、薬液の採取など

2. 多目的実習室(手洗い・注射実習室：クリーンベンチ使用)：

混合調製の実践(準備、手洗い、手袋装着、混合調製、鑑査、清掃)

3. 総括・修了証授与

3. 帝京平成大学における研修

期 日：講義 平成30年2月18日(日) 47名受講

実習 平成30年2月25日(日) 46名参加

場 所：帝京平成大学 中野キャンパス

概 要：

<2月18日(日) 講義>

開講にあたって 東京都福祉保健局健康安全部薬事監視担当課長 河野 安昭

帝京平成大学 副学長・薬学部長 安西 健二郎

東京都薬剤師会 常務理事 上野 浩男

在宅医療における無菌調剤の現状

心身障害児総合医療療育センター薬剤科長

板橋区薬剤師会 理事・HIP研究会 副会長 海老原 肇

輸液の基本知識

株式会社大塚製薬工場 営業本部 学術部 園田 景三

中心静脈栄養法(TPN)の基本

帝京平成大学 薬学部 准教授 百 賢二

注射剤の混合調製を始めるに際して

帝京平成大学 薬学部 教授 清野 敏一

<2月25日(日) 実習> *実習講師； 17名(A班8名、B班7名、統括2名)

1. 318 調剤実習室：

手洗い、手袋の脱着、アンプル、バイアル、シリソジの取扱い、

凍結乾燥品の取扱い、薬液の採取など

2. 313 無菌調剤実習室(クリーンベンチ使用)：

混合調製の実践(準備、手洗い、手袋装着、混合調製、鑑査、清掃)

3. 総括・修了証授与

(6) 医薬品医療機器等法に対応した医薬品等の適正使用の推進および供給体制

整備等に関する周知徹底に資する資料提供

(9. (2) 「薬事衛生自治指導教本」の作成と講習実施」の項を参照)

(7) 健康サポート薬局に取り組む薬剤師への研修会の実施

平成 28 年 4 月に施行された健康サポート薬局については、薬局が健康サポート薬局である旨の表示を行うにあたり、厚生労働大臣が定める基準第三号で規定される常駐する薬剤師の資質に係る「要指導医薬品及び健康食品等の安全かつ適正な使用に関する助言、健康の保持増進に関する相談並びに適切な専門職種または関係機関への紹介等に関する研修」を全て受講した後に発行される研修修了証の添付提出が必須である。日本薬剤師会と日本薬剤師研修センターが共同で、厚生労働省が指定する第三者機関(指定確認機関)である公益社団法人日本薬学会から健康サポート薬局に係る研修の実施機関として確認を受けたことから、当会は、日本薬剤師会との共催で技能習得型《研修会 A》並びに《研修会 B》の開催協力を昨年度に引き続き行い、日本薬剤師会より発出された「健康サポート薬局に係る研修」通知その 27~その 29 の内容を把握し、地区薬剤師会に伝達した。

また、当会で《研修会 A》並びに《研修会 B》をそれぞれ 1 回開催したほか、地区担当者向けに《研修会 A》の説明会を開催した後に、地域単位での《研修会 A》を計 4 回、開催の共催をした。《研修会 A》は合計 337 名、《研修会 B》は合計 143 名に受講証明書を発行した。

なお、地区における研修会開催の状況は【資料 4】のとおりである。

【地区における健康サポート薬局に係る技能習得型研修《研修会 A》地区担当者会議】

期 日：平成 29 年 9 月 2 日(土) 17:30~19:20

場 所：TKP 神田ビジネスセンター ANNEX

受講者：全 46 地区 73 名

内 容：

挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

健康サポートのための多職種連携研修会標準プログラムの開設

東京都薬剤師会 常務理事 小野 稔

地区薬剤師会における《研修会 A》の開催方法について

東京都薬剤師会 常務理事 上野 浩男

地区薬剤師会における《研修会 B》の開催方法について

東京都薬剤師会 常務理事 一瀬 信介

質疑応答

【健康サポート薬局に係る技能習得型研修《研修会 A》】

期 日：平成 30 年 3 月 3 日(土) 16:00~20:30

場 所：TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター

受講者：209 名(うち会員外 84 名)

内 容：

挨拶 東京都薬剤師会 副会長 大木 一正
健康サポート薬局の基本理念(DVD) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
健康サポート薬局の理念～地域包括ケアに対応した薬局・薬剤師～
東京都薬剤師会 在宅医療支援事業WG委員 前田 桂吾
当該地域の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と役割の現状
東京都の健康課題と健康増進施策 ～健康サポート薬局への期待～
東京都福祉保健局保健政策部 健康推進課長 中坪 直樹
他職種等の取り組みについて ～健康サポート薬局との連携を探る～
①地域における健康相談について ～健康サポートとの連携を探る～
港区 みなと保健所 健康推進課長 白井 隆司
②墨田区における多職種連携 ～薬剤師会との連携を通して～
墨田区福祉保健部介護・医療連携調整担当 副参事 梅原 和恵
東京都の医療・保健・介護・福祉等の資源と役割の現状
東京都薬剤師会 理事 根本 陽充
演習 東京都薬剤師会 在宅医療支援事業WG委員 伊藤 威
総括 東京都薬剤師会 常務理事 上野 浩男

【健康サポート薬局に係る技能習得型研修《研修会B》】

期 日：平成 30 年 3 月 10 日(土) 15:45～20:45

場 所：TKP 神田ビジネスセンター

受講者：100 名(うち会員外 42 名)

内 容：

挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一
薬局・薬剤師を巡る現状と健康サポート薬局 東京都薬剤師会 理事 根本 陽充
薬局利用者の状態把握と対応【腰痛】(DVD 講義) 昭和大学医学部理学講座
(演習) 医科薬理学部門 教授 木内 祐二
進行：東京都薬剤師会 理事 西澤 啓子 東京都薬剤師会 理事 龍岡 健一
まとめ 東京都薬剤師会 常務理事 松本 有右
レポート作成・提出

(8)登録販売者研修会の開催

平成 24 年度より一般用医薬品の販売に従事するすべての登録販売者に対し、毎年 12 時間以上の外部研修を受講することが義務化されたことを受け、薬局並びに店舗

販売業に従事する登録販売者の資質向上を目的に、外部研修実施機関としてガイドラインに沿ったカリキュラムを基に、平成29年度登録販売者研修会を下記の通り開催した。

本年度は全3回12時間のうち1回目を日本薬剤師会・日本薬剤師研修センターと共催した。受講者は73名であった。

【登録販売者研修会】3回講座

<第1回>

期日：7月23日(日) 9:30～17:00

場所：発明会館

主催：日本薬剤師会、日本薬剤師研修センター、東京都薬剤師会

受講者：73名(うち会員外2名)

内容：

一般用医薬品が果たす役割と登録販売者に求められる資質

日本薬剤師会 常務理事 渡邊 和久

漢方概論・症状からみた医薬品の適用とその作用

(眼の症状に用いられる漢方薬) 東京都薬剤師会 海老原 寛人

最近の薬務行政について～医薬品販売制度について～

厚生労働省 医薬・生活衛生局総務課 主査 山本 真也

人体の構造と薬の特性

慶應義塾大学薬学部 名誉教授 福島 紀子

症状からみた医薬品の適用とその作用(眼の症状に用いられる一般用医薬品)

日本薬剤師会 一般用医薬品等委員会 吉田 和司

一般用医薬品の適正使用と安全対策

日本薬剤師会 一般用医薬品等委員会 磯木 雄之輔

<第2回>

期日：8月6日(日) 12:30～15:50

場所：TKP神田ビジネスセンター

主催：東京都薬剤師会

受講者：73名(うち会員外2名)

内容：

症状からみた医薬品の適用とその作用(湿疹に用いられる一般用医薬品)

東京都薬剤師会 理事 西澤 啓子

アルゴリズム 湿疹

東京都薬剤師会 理事 根本 陽充

<第3回>

期日：9月3日(日) 12:30～15:50

場所：TKP神田ビジネスセンター

受講者：73名（うち会員外2名）

主 催：東京都薬剤師会

内 容：

健康食品について

東京都薬剤師会 相談役 原 博

アスリートのための薬の選択について

東京都薬剤師会 相談役 原 博

ヒューマンエラー分析 一般用医薬品ヒヤリ・ハット事例を含む

東京都薬剤師会 理事 関根 克敏

（9）後発医薬品の使用促進と後発医薬品データベースの充実

厚生労働省の後発医薬品のロードマップ達成状況に関する調査「平成28年度ロードマップ検証検討事業報告書」が平成29年7月に公表され地区薬剤師会を経由して薬局に通知した。

日本薬剤師会を経由して、厚生労働省が作成した後発医薬品使用促進に係る調査（後発医薬品のロードマップ対応状況に関する調査・平成28年度診療報酬改訂の結果検証に係る調査「後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査」・生活保護受給者に先発医薬品が調剤されている理由調査）の協力案内を地区に通知し、協力依頼を求めた。

後発医薬品の安定供給については、平成25年12月に苦情を受け付ける仕組みが厚生労働省医政局経済課に設けられており、会員等から寄せられた苦情などをその都度情報提供を継続しており、平成29年度は13件の情報提供を行った。

後発医薬品比較サイトの登録医薬品データの更新及び「薬価基準新規収載品」の追加登録を行い、最新情報の提供に努めた。また、第9回目となる地域医薬品使用実態調査から得られた個々の後発医薬品の調剤回数を本サイトデータに反映した。

（10）高度管理医療機器販売業等営業所管理者継続研修の実施

平成18年度より高度管理医療機器等営業所管理者に年に一度継続研修が義務付けられている。平成29年度も実施機関の認可を得ている日本薬剤師会と共に開催して継続研修会を開催し、受講者に修了証を発行した。

【高度管理医療機器等営業所管理者継続研修会】

期 日：平成29年8月27日（日） 10：30～12：30

場 所：東京国際フォーラム ホールA

受講者：1,867名（うち会員外167名）

内 容：

医薬品医療機器等法その他薬事に関する法令

東京都千代田保健所 生活衛生課医務薬事衛生担当 井上 均

医療機器の情報提供

医療機器の不具合報告及び回収報告

医療機器の品質管理

商工組合 日本医療機器協会 理事

株式会社プラトンジャパン 専務取締役 廣瀬 英一

修了者数：1,818名

東京都 1,492名、神奈川県 120名、千葉県 100名、埼玉県 98名、

茨城県 2名、栃木県 2名、群馬県 2名、新潟県 1名、秋田県 1名

(11) 地域医薬品使用実態調査の実施

東京都内において処方箋により交付されている医薬品の使用実態、すなわち交付された医療用医薬品の医薬品名、調剤回数、調剤数量及び備蓄薬局数並びにその医薬品がどのような特別な作業を伴う調剤(例えば、自家製剤、計量混合または一包化など)あるいはどのような薬学的管理(薬剤服用歴管理指導、かかりつけ薬剤師指導、各種情報提供、在宅患者訪問薬剤管理指導など)を伴って患者に交付されたかなど、地域における医薬品の使用実態と調剤実態を明らかにすることを目的として第9回目を実施した。

さらに、国が進める後発医薬品の使用実態を明らかにし、過去のデータと比較することで後発医薬品使用の進捗状況を把握するとともに、都民への後発医薬品に関する正しい知識の普及と安定供給のための基礎資料を得ることを目的とした。

電子媒体で調剤報酬を請求する薬局を対象とし、地区薬剤師会が区市ごとに保険薬局数の1/5に相当する任意に選定した薬局、都内全体では1,200薬局を調査対象とした。

調査対象月及び対象者は、平成29年10月調剤分の被用者保険、国民健康保険及び後期高齢者医療保険の加入者とし、調査対象薬局の電子レセプトデータから“患者”及び“調剤した薬局”並びに“処方箋発行医療機関”にかかる一切の個人情報を電磁的に削除した医薬品等に関するデータのみを抽出し、解析用データとした。

(8.(4)「後発医薬品の備蓄に関する情報提供」の項を参照)

2-3 医薬分業対策

(1) 医薬分業地区指導者会議の開催

今年度は、「平成30年の調剤報酬・介護報酬の同時改定を前に『患者のための薬局ビジョン』を踏まえた、かかりつけ薬剤師・薬局のあり方について」をテーマに地区薬剤師会から地区指導者の派遣を受けて、下記の日程にてワークショップ形式で開催した。また、会議終了後に出席者と情報交換会を行った。

【医薬分業対策地区指導者会議】

期 日：平成 30 年 2 月 18 日(日) 9:00～18:00

場 所：帝京平成大学 中野キャンパス 4 階 436 教室他

出席者：地区薬剤師会参加者 41 名、役員 5 名、薬局業務委員会委員 11 名

内 容：

挨拶 東京都薬剤師会 副会長 藤田 義人

趣旨説明 東京都薬剤師会 薬局業務委員会 委員長 篠原 昭典

基調講演

平成 30 年の調剤報酬・介護報酬の同時改定を前に『患者のための薬局
ビジョン』を踏まえた、かかりつけ薬剤師・薬局のあり方について

東京都薬剤師会 医療保険部担当常務理事 山田 純一

<スモールグループディスカッション>

「かかりつけ薬剤師とお薬手帳」

<スモールグループディスカッション>

「医療費適正化に向けたかかりつけ薬剤師の取組み」

(2) 広域医療機関等、処方箋応需に係る諸問題への対応

延べ 13 広域医療機関から報告のあった採用医薬品情報(変更を含む)について管理センター等に情報提供を行い、応需体制確立の側面支援を行った。

(3) 医薬分業について関係諸団体との協力

日本薬剤師会の関東・東京ブロック会議開催要領に基づき、年 1 回 1 都 7 県持ち回り開催分として、平成 29 年 11 月 26 日に千葉県薬剤師会が主催し、東京ブロック世話人(会長)、常務理事 2 名及び理事 1 名を派遣した。

議題は下記の通り。

- (1) 薬剤師を巡る最近の課題について
- (2) かかりつけ薬剤師・薬局について
- (3) ICT への対応について
- (4) その他

2-4 地域医療対策

(1) 東京都の保健医療計画等各種計画への積極的な対応

各協議会等に委員として参画し意見するとともに、薬局・薬剤師の役割が計画に反映されるよう働きかけた。

2-5 医療安全対策

(1) 医薬品医療機器等法等改正に伴う体制の整備

薬局における医薬品の業務に係る医療の安全を確保するための基本理念及び安全確保に関する具体的方策等の周知徹底を図るために、薬学講習会において「医療安全管理シリーズ／高齢患者の処方監査と医療安全対策」の講習を行った。

(2) 薬局版ヒヤリ・ハット事例収集分析事業への協力促進等調剤事故防止対策の徹底

ヒヤリ・ハット事例報告登録薬局目標数及び既登録薬局リストを示して未登録薬局に対し登録促進の働きかけを再度地域薬剤師会に依頼するとともに、薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業第16・17回報告書及び平成28年度年報を地区薬剤師会へ周知した。ほかに、医療事故収集等事業の「医療安全情報」No.125～No.136と報告書第48～51回の薬剤関連部分並びに日本薬剤師会に報告された平成28年度調剤事故事例についても周知を図った。2017年12月末日現在の都内参加薬局数は1,064件である。

(3) 調剤過誤発生後の的確な対応と弁護士紹介

平成27年に医療事故調査制度が施行され、東京都に設立された医療事故調査等支援団体連絡協議会が公表した提言を回覧した。

調剤過誤でトラブルとなり相談のあった件について顧問弁護士への相談の橋渡しを行った。

(4) 東京都健康安全研究センターへの協力

平成29年度中に薬局・薬剤師に対する苦情は4件受付けている。苦情の内容として、薬剤情報提供に関するもの2件、ジェネリックへの変更に関するもの1件、薬局での支払い金額に関するもの1件が寄せられた。

(5) 使用済み注射針回収事業の継続と今後の方針検討

使用済み注射針回収事業は東京都全域の地区薬剤師会で実施継続されている。事業開始以来16余年が経過し、患者や地域住民、地域行政にも事業の意義が広く浸透している。

29年度は、回収専用容器を14万個作成し、地区薬剤師会あるいは地区薬剤師会の事業を支援する行政に対して1個あたり100円にて有償頒布を行うとともに、医薬品空容器を使用済み注射針回収容器として再利用するための専用シール、容器封緘

シールを作成・配布した。また、新規参加薬局 130 件に対しても事業参加支援を行った。また、都内全域で 15 万本強(昨年度より 5,948 本増加)の容器が回収されたとの報告を地区薬剤師会より受けた。

東京都で開催される「在宅医療廃棄物の適正処理に関する意見交換会」に担当役員が参加し、当該事業の地域別回収実績資料を提供し、行政及び関係者との情報共有と連携を図ると共に、感染性医療廃棄物の安全処分体制の早急な構築について東京都環境局への働きかけを行った。

(6) 薬剤イベントモニタリング(DEM) 事業への協力

日本薬剤師会が毎年 1 回実施する DEM 事業について、今年度は、従来の方法(患者への聞き取り調査)が変更され、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に沿って「既に薬歴に記載されている事項の転記」が実施された。

DEM 事業の周知のため薬局用説明書等を配布し、データ収集への協力を地区薬剤師会を通じて薬局に呼びかけた。

- ・テーマ：医薬品の使用に伴う有害事象の検討—Drug Event Monitoring (DEM) で報告されたイベントの解析

- ・調査対象医薬品：

イフェクサーSR カプセル、ヴィキラックス配合錠、カプレルサ錠、スピオルトレスピマット、ゼビアックスローション、トラクリア小児用分散錠、ピートルチュアブル錠、マリゼブ錠、ミティキュアダニ舌下錠、ムルプレタ錠、ライゾデグ配合注、ロコアテープ(12 薬剤)

- ・調査期間：平成 27 年 11 月(調査対象薬の薬価基準収載月)～平成 29 年 10 月 31 日

(7) 学術倫理特別委員会の実施・運用

学術倫理特別委員会は、会員が勤務する薬局等、本会の地区・職域薬剤師会、本会各委員会等の実施する医学薬学領域における調査・研究の倫理的妥当性を審査することを目的として、平成 26 年 11 月に設置された。

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が平成 29 年 2 月に改訂されたこと、第 52 回日本薬剤師会学術大会(山口)より、演題登録時に倫理への配慮に関して確認が求められることになったことに伴い、ホームページ掲載内容、審査手順書・必要書類等の更新を行い、倫理審査に向けての体制整備を行った。

2－6 規制改革等への対策

(1) 医薬品情報等の電子化に向けた対応

(2－7. (3) 「安全・適正な医薬品使用のための「お薬手帳」普及啓発」の項を参照)

(2) 日薬の施策に対応した対策の検討

日薬の施策・事業に対し、理事会や各委員会等で協議・検討し、研修会や地区職域薬剤師会会长会等を通じて周知を図り、その施策に協力した。

2－7 都民への広報対策

(1) 健康サポート薬局の役割、かかりつけ薬剤師・薬局の役割、各種事業等の

都民への周知

第10回OTC医薬品啓発イベント「よく知って、正しく使おうOTC医薬品」を平成29年10月20・21日の両日、関係団体と協力して開催した。本年は日本橋福徳の森及び江戸桜通り地下歩道で開催し、2日間で約1万人の来場者があった。本会は、模擬薬店内カウンターで薬の使い方の説明、試供品の提供、薬の街頭相談を担当し、セルフメディケーションに果たすOTC医薬品の役割、正しい知識や使い方等の啓発活動を実施し、医薬品等に起因する健康被害の防止や、セルフメディケーションの重要性を啓発した。

OTC製薬企業など31社が出展し、製品情報等をPRしたコーナー、模擬薬店・お薬相談コーナー、健康チェックコーナー、調剤体験コーナー等が設置され、役員8名、薬局業務委員会委員12名、事務局5名を派遣した。

【OTC医薬品普及啓発イベント「よく知って、正しく使おうOTC医薬品】

期　日：平成29年10月20日(金) 12:00～20:00

平成29年10月21日(土) 10:00～19:00

場　所：日本橋福徳の森(第1会場)、江戸桜通り地下歩道(第2会場)

入場者数：約1万人

主　催：日本一般用医薬品連合会(日本OTC医薬品協会・日本家庭薬協会)／

(公社)東京薬事協会／(公社)東京生薬協会／

(公社)東京都薬剤師会／(公社)東京都医薬品登録販売者協会

後　援：厚生労働省／東京都／東京商工会議所／東京薬科大学

(2) 安全・適正な医薬品使用のための情報提供

都民のための「おくすり相談窓口」では、平成29年度中に延べ753人の一般都民からの相談を受け付け、医薬品の適正使用情報等を提供した。

(3) 安全・適正な医薬品使用のための「お薬手帳」普及啓発

平成28年4月より施行された「健康サポート薬局」の基準に、かかりつけ薬局としての基本的機能におくすり手帳の活用が明記された。

各薬局が安全・適正な医薬品使用のための都民への情報提供に積極的に取り組めるよう、安価に作成し頒布した(1.3万冊(前年度約1.6万冊、一昨年度約1.8万冊))。

また、薬と健康の週間では薬局及び地区で開催された街頭相談所において、カレンダー付き地下鉄路線図と、イラスト付きPRチラシ〔お持ちください　おくすり手帳〕、〔「おくすり手帳」は、おくすりを安全に使うためのあなたの大切な記録帳です。〕を配布した。

(4) I C Tの適正な活用に向けた体制整備

「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第5版」が策定され公表されたことを受け、地区への情報提供を行った。

3. 医療保険対策

3-1 医療保険対策

(1) 医療保険等関連情報の収集と伝達

調剤報酬の算定の可否等に関する質問については随時回答し、適正な調剤報酬の確保に務めた。なお、下記の質問受付回数は計1,300件を上回った。

また、各種の医療保険関連通知、制度改正などはその都度地区薬剤師会に伝達した。

〔月別問い合わせ件数〕

月	質問件数	月	質問件数	月	質問件数
4月	105	8月	89	12月	111
5月	123	9月	111	1月	89
6月	153	10月	121	2月	103
7月	151	11月	109	3月	114

関東信越厚生局管内10県薬剤師会社会保険担当者協議会は、年1回1都9県持ち回り開催しており、平成29年度は茨城県薬剤師会が主催し、37名が出席した。平成30年2月7日開催の会議に、医療保険担当役員2名、医療保険委員1名並び

に事務局 2 名を派遣した。協議議題は下記の通り。

1. 重複投薬・相互作用等防止加算について
2. 薬剤師の文書作成料について
3. かかりつけ薬剤師指導料について
4. 個別指導の対象薬局選定方法について
5. 計量混合調剤加算について
6. 嘸下困難者用製剤加算、自家製剤加算について
7. 在宅患者緊急訪問薬剤管理指導料について
8. 在宅専門薬局について
9. 介護保険の算定状況について
10. 服薬情報等提供料の算定タイミングについて
11. 薬剤情報提供文書の記載について
12. 一般名処方における調剤について
13. 嘐下困難者用製剤加算と自家製剤加算及び計量混合調剤加算の併用について
14. 大型門前薬局処方箋受付時の定額負担について
15. 吸入指導加算の新設について
16. 自家製剤加算の算定可否について
17. 一包化加算の算定可否について
18. その他

平成 29 年度には、4 月と 8 月に調剤報酬に係る不正請求事案の公表が複数発生した。この事案を非常に重く受け止めた日本薬剤師会は、平成 29 年 8 月に、「調剤報酬に係る適正な保険請求に関する自主点検」を実施し、回答票の取り纏め並びに報告に協力した。

しかしながら、回答のあった全ての薬局において付け替え請求は認められなかったことを確認・公表後にも新たな付け替え請求が発覚したことから、厚生労働省と日本薬剤師会の要請により再度自主点検を実施して 12 月に取り纏めた。この点検票は未回答薬局名簿も併せて厚生労働省に報告された。

規制改革実施計画を踏まえ一部改正された保険医療機関との一体的な構造に係る解釈が変更されたことに対して、全国的に医療機関による敷地内薬局の誘致が行われているとの情報を日本薬剤師会と共有していたが、平成 29 年 11 月に、世田谷区上用賀に位置する公立学校共済組合関東中央病院が、敷地内薬局の誘致の公募を募り、優先交渉権を得た数社の内から選定し開局を見込んでいるとの報道があった。当会では当該医療機関に公募に至る経緯や開局時期等を確認すると同時に東京都薬剤師会として当該薬局の設置については容認できない旨を伝えた。敷地内薬局の設置地区となる世田谷保健所長並びに施設基準届出先となる関東信

越厚生局東京事務所長にも同様の申し入れを行った。

(2) 適正な保険請求業務の指導

【レセプトオンライン代行請求支援】

平成 21 年 5 月請求時からオンライン請求の義務化が実施されたが、オンライン回線敷設が困難な保険薬局を支援するため代行請求業務を開始した。平成 29 年度も 3 保険薬局(平成 30 年 2 月請求時からは 2 保険薬局)に対し当該代行請求サービスを継続した。

(3) 国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成

平成 30 年 4 月から実施される調剤報酬改定に係る算定要件の内容を解説した「国民健康保険調剤必携」を発行した。処方箋様式及び療養担当規則等の改正、調剤報酬明細書記載上の変更点、介護報酬の改定内容について掲載し、地区薬剤師会を通じて保険薬局に配布し適正な請求の確保を図った。

また、調剤報酬点数表一覧を作成し、患者が閲覧できる「薬局内の掲示物」として、地区薬剤師会を通じて保険薬局に配布を行った。

(4) 社会保険地区指導者の育成及び協議会の開催

【指導者の育成】医療保険地区指導者養成講座

期 日：平成 30 年 1 月 21 日(日) 10:00～16:30

場 所：東京都薬剤師会館 3 階及び 4 階

出席者：地区薬剤師会 39 名

次 第：

開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

基調講演 東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

<グループワークにて 5 課題を協議・発表・全体討議>

閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

【指導者研修会の開催】医療保険地区指導者研修会

期 日：平成 29 年 3 月 15 日(木) 19:00～20:50

場 所：TKP 神田ビジネスセンター 3 階

出席者：54 名

地区医療保険指導者 44 名、傍聴 4 名、医療保険委員会委員 6 名

内 容：

平成 30 年度調剤報酬改定の解説 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

質疑応答

【平成 30 年度調剤報酬改定伝達講習会の開催】

平成 30 年 4 月に改定される調剤報酬・介護報酬の変更点、保険薬局を取り巻く現状及びその背景等について講習会を行い解説し周知した。

(1) 期 日 : 平成 30 年 3 月 20 日(火)19:00~21:00

場 所 : たましん RISURU ホール(多摩地区対象)

(2) 期 日 : 平成 30 年 3 月 21 日(水・祝)①10:45~12:55、②14:30~17:00

場 所 : 中野サンプラザ(23 区対象)

内 容 :

挨拶

東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

平成 30 年度調剤報酬改定内容解説

3 月 21 日① 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

3 月 20 日、3 月 21 日② 東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

受講者 : 合計 2,608 名

3 月 20 日(火)723 名

3 月 21 日(水・祝)1,885 名(午前 1,096 名・午後 789 名)

(5) 保険薬局の経営等に関する各種調査

平成 29 年度は、以下の各種調査に対応し、無作為抽出等で対象とされた薬局等に対し、地区薬剤師会を通じ回答の協力を依頼を行った。。

・第 21 回医療経済実態調査(医療機関等調査)

・平成 28 年度調剤報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

「後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査」

・平成 28 年度調剤報酬改定に伴う影響調査(平成 29 年度調査)

「保険調剤サポート薬局及び保険薬局を対象とした調査の実施」

・平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

「明細書の無料発行の実施状況調査(公費負担医療にかかるものを含む)」

・平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 29 年度調査)

「医薬品の適正使用のための残薬、重複・多剤投薬の実態調査並びに

かかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の影響及び実施状況調査」

・平成 29 年度厚生労働省保険局医療課による委託事業「薬局の機能に係る実態調査」

・医薬品の流通、販売・授与の適正化に関する実態調査について

・平成 29 年度構成労働省委託事業「後発医薬品のロードマップ対応状況に関する調査」

その他、東京都薬局機能情報の平成 29 年度定期報告に報告の周知をを地区薬剤師会に依頼した。

3-2 介護保険制度の適正な運用の指導と高齢者対策

(1) 在宅薬剤管理業務の拡充のための調査・研修会の実施

急速に進む少子高齢社会に対応すべく構築が進められている地域包括ケアシステムに関して、在宅療養への薬局・薬剤師の参画を推進するため平成29年度はその一環として、「在宅療養中の高齢者の薬物療養に関し、その一元的かつ継続的な管理を行うと共に、ポリファーマシーについてはどのように対応するか」をテーマに研修会を開催した。本研修会は薬局薬剤師、病院薬剤師と医療機関と行政における薬物療法の連携構築に向けて、多職種とのディスカッションを含む内容とした研修会を開催した。

【在宅療養多職種連携研修会】

期日：平成30年2月3日(日) 17:00～19:20

場所：すみだリバーサイドホール

受講者：226名

内容：

挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

基調講演

在宅(緩和)ケアと調剤薬剤師の役割～医薬連携に期待するところ～

医療法人社団愛語会要町病院 副院長 吉澤 明孝

都薬務課の取組と東京都保健医療計画(第6次改定)

東京都福祉保健局 健康安全部薬務課 課長代理 阿部 朋広
多職種連携を目指す保険薬局に必要なこと

東京都薬剤師会 在宅医療支援事業WG委員 添石 遼平
これから地域連携を模索して(病院薬剤師の立場から)

～患者さんに寄り添い、薬剤師の能力を発揮するために～

東京都薬剤師会 在宅医療支援事業WG委員 越田 晃
<パネルディスカッション>

座長：東京都薬剤師会 在宅医療支援事業WG委員長 保坂 洋二

東京都薬剤師会 在宅医療支援事業WG副委員長 山崎 敦代

4. 医薬品等薬事情報対策

(1) 安全・適正な医薬品使用の啓発のための情報収集・提供

① 薬事情報課(医薬品情報室)利用状況

薬事情報課は医薬品情報室として設置されて以来42年目を迎えた。医薬品情報のみならず医療情報、健康食品情報、アンチ・ドーピング、薬事関連法規等の各種の薬事情報の収集・提供に努めている。また、インターネット等を利用して発信する情報を充実させ、利用者へのサービス向上に取り組んでいる。

問合せ者数、問合せ件数ともに前年度より2割ほど減少し、前々年度とほぼ同数となった。

問合せ者別にみると、一般都民からの問合せがもっとも多く、次いで薬局薬剤師、医療関係者、製薬会社、病院・診療所薬剤師と続く傾向は変わらない。

【問い合わせ件数集計(平成29年4月～平成30年3月)】

(問い合わせ件数)

平成29年 4月	109 件	10月	78 件
5月	97 件	11月	66 件
6月	84 件	12月	79 件
7月	44 件	平成30年 1月	93 件
8月	50 件	2月	70 件
9月	100 件	3月	92 件
		合 計	962 件

(問合せ者別集計)

①薬局	108 人	(11.8%)
②病院・診療所	7 人	(0.8%)
③卸	0 人	(0.0%)
④管理センター	2 人	(0.2%)
⑤製薬会社	16 人	(1.7%)
⑥医療関係者	31 人	(3.4%)
⑦その他	753 人	(82.1%)
合 計	917 人	

問合せ事項の内訳としては、一般の方からのドーピングに関する問合せが圧倒的

に多い傾向が続いている。ドーピングに関する問題がニュース等で大きく取り上げられ、また、2020 東京オリンピック・パラリンピックを控え、アスリート等のドーピングに対する意識の向上から、今後もこの傾向が続くと思われる。

なお、その他の事項中、健康食品に関する問合せは 5 件であり、妊婦・授乳婦に関する問合せはなかった。

(問合せ事項別集計)

	全体		医療従事者 ・関係者		一般	
①保険・法規関係	80 件	(8.3%)	64 件	(37.6%)	16 件	(2.0%)
②医薬品一般	93 件	(9.7%)	11 件	(6.5%)	82 件	(10.4%)
③副作用・中毒	22 件	(2.3%)	1 件	(0.6%)	21 件	(2.6%)
④薬理・疾病	19 件	(2.0%)	1 件	(0.6%)	18 件	(2.3%)
⑤薬剤学的事項	1 件	(0.1%)	1 件	(0.6%)	0 件	(0.0%)
⑥製剤識別	1 件	(0.1%)	1 件	(0.6%)	0 件	(1.0%)
⑦ドーピング	597 件	(62.1%)	83 件	(48.8%)	544 件	(64.9%)
⑧その他	149 件	(15.5%)	8 件	(4.7%)	141 件	(17.8%)
合 計	962 件		170 件		792 件	

②医薬品情報提供事業

1) D I 速報(FAX 等)の発行

厚生労働省医薬品・医療機器等安全性情報の概要 No. 342～351 10 回

新薬情報 No. 119～122 4 回

2) 広域病院採用医薬品のお知らせの発行

都内各所の広域病院から連絡があった採用医薬品、採用中止医薬品等の情報を月ごとにまとめ、地区薬剤師会長会にて周知を行った。

(2)インターネットを利用した各種薬事情報提供の推進

東京都薬剤師会ホームページ「医薬品等情報ページ」では、独自に作成した「新薬情報」、「添付文書改訂のお知らせ」を随時掲載するとともに、「医薬品・医療機器等安全性情報」の最新号にリンクを貼る等の方法で、利用者の利便性を高めることに努めた。また、冊子「DI レター」「医薬品情報」については、発行後、PDF 形式で掲載している。

(3)都民のための「おくすり相談窓口」業務の充実

道府県薬剤師会が作成した Q&A 集等参考書籍、データを収集した。

(4)都民のための「健康食品に関する安全性情報」提供のための情報収集

東京都及び東京都医師会と協力し、健康食品によると疑われる健康被害情報の収集に努め、東京都へ2件の被害情報を報告した。

会員等から広く被害事例収集するため、「健康食品情報共有シート」を定期的(3回/年)に都薬雑誌に同封した。

また、東京都より発出された健康食品との関連が疑われる健康被害事例の収集への協力依頼文書(前期分)を薬学講習会で受講者に配布したほか、後期分の協力依頼文書、健康食品との関連が疑われる健康被害事例(平成18年7月～平成29年11月)をまとめた冊子「健康食品に関する安全性情報共有事業」、リーフレット「あなたは大丈夫？健康食品利用中の体の不調」を地区薬剤師会を経由して各薬局に配布し、事例の収集を呼び掛けた。

健康食品データベースにおいては、企業からの新規登録及び修正依頼に対して、より円滑に対応できる機能を構築した。また、企業からの要望により、6製品のデータを削除し、新たに100製品(JHFAマーク製品)追加した。薬と健康の週間では、都民に対して健康食品の利用に関する注意事項と健康食品データベースの利用を呼びかけるリーフレットを配布した。

(5)関係諸団体との連携、情報収集

厚生労働省、日本薬剤師会と連携し、医薬品やその副作用等に関する情報の収集に努めた。また、東京医薬品工業協会、日本製薬工業協会の研修会等へ参加し、医薬品情報収集への協力を求めた。

5. 衛生試験所で実施した試験検査・調査研究

(1)随意試験：会員薬局の業務向上に資する医薬品試験および情報提供

医薬品は、必要に応じて試験検査を実施し、その基準に適合しないもの、異物が混入し、または付着しているものは販売・授与のみならず輸入・陳列が禁止されている。それを取扱う薬局の開設者および管理者は、必要に応じて医薬品の試験検査を実施することが、「医薬品、医療機器等の品質、有効性および安全性の確保等に関する法律」およびその施行規則で義務付けられている。これに該当する医薬品が今年度は16検体都内薬局より依頼され、その内訳は化学薬品を主とする内用薬剤3検体および外用薬剤13検体であった。薬局で製造した薬局製剤であり、その製造販売承認の基準に外れないかという懸念を持たれ、依頼のあったものである。これらはいずれも基準に適合していた。その他、異物が混入された調剤済み医薬品に対する患者クレーム対応の試験検査を行った。それらの異物は、1. トビイロケアリまたは

その近縁種、2. 分包機で以前使用された錠剤の破片であり、分包機の汚れから生じた異物と推定した。

(2) 計画的試験：試験所契約の薬局が製造する薬局製剤の承認規格試験

平成29年度の計画的試験として試験所契約の薬局が製造する薬局製剤の承認規格試験を行った。39種類86検体が搬入され、試験を行ったところ、17検体が含量基準に外れる可能性が高いということで不適切品と判定した。承認規格に適合するか否かを判定するには、製剤均一性試験の結果も必要であるが、検体搬入量が十分でないことから、不適切品という評価区分を仮に設け判断した。

不適となったものは3検体で、漢方薬では、配合されるべきビャクジュツが確認されず、ソウジュツが確認された。また、化学薬品を主とする内服薬では、木片様異物および錠剤破片様異物が確認された。

基準に外れる可能性の高い薬局製剤を製造した薬局には時を措かずにその結果を報告するとともに、薬局製剤業務指針の処方・規格の確認および製造記録の再確認を薬局にお願いした。

【平成29年度計画的試験件数】

	処方数	検体数	不適数	不適切数 ^{※1)}
I. 薬局製剤の承認適否試験	39種	86検体	3検体	17検体
1) 漢方薬(切断生薬)	19種	26検体	1検体	0検体
2) 生薬製剤(生薬末)	1種	4検体	0検体	0検体
3) 化学薬品を主とする内服薬	12種	36検体	2検体	14検体
4) 外用薬	7種	20検体	0検体	3検体

*1) 適否判定を行うには、定量試験の結果と製剤均一性試験の結果から判断しなければならない。今回、定量規格には外れるが、製剤均一性試験が実施できなかつたものは不適切という評価区分を設けた。

(3) 漢方薬のエキス顆粒と煎剤の比較検討と評価・検討

上記表題について分析をすすめ、エキス顆粒と煎剤中のグリチルリチン酸、エフェドリン類、ペオニフロリン、ケイヒアルデヒドの含量調査を行った。その結果、ケイヒアルデヒドは薬局製剤に比較し、エキス顆粒にほとんど含まれていないなどの新しい知見が得られたので、『葛根湯を例とした薬局製剤に優位な成分情報』と題し、第50回日本薬剤師会学術大会(東京開催)で発表を行つた。

(4) 一包化調剤に伴う医薬品の品質調査

一包化調剤を行うと品質の劣化が疑われる薬剤があり、これらの品質試験を行つ

た。総計は 79 種類の薬剤の組み合わせからなる 35 処方であり、これらは試験所契約の薬局から試験依頼のあった薬剤である。

一包化調剤を施し保管した場合、その品質保証が得られる基準、規格および試験方法は現在まで確立されたものはないが、医薬品製造販売業で実施される安定性試験を準用し実施した。保管条件は、暗所、 $40^{\circ}\text{C} \pm 2^{\circ}\text{C}$ / $75\% \text{RH} \pm 5\% \text{RH}$ とし、品質の内容はそれぞれの医薬品インタビューフォームを参照し、検体收受日を 0 日とし、1 カ月後および 2 カ月後の変化を認めたものを不適、変化を認めないものを適とし評価した。本条件で不適となった一包化剤は 35 処方中 22 処方であった。また、『カルボシスティンドライシロップによる一包化調剤の品質劣化』と題し、カルボシスティンドライシロップは一包化調剤に配合される他の薬剤の影響を受け易く、色、味および成分が変化することを、第 50 回日本薬剤師会学術大会(東京開催)で発表した。

(5) 日本薬剤師会が実施する全国統一試験(医薬品試験に係る精度管理試験)

への協力・参画

日本薬剤師会が実施する全国統一試験(医薬品試験に係る精度管理試験)を内部精度管理試験として受託し、カフェインの定量試験を実施した。結果は日本薬剤師会に報告し、各県薬から回答された全国統一試験としてまとめられた。

(6) その他

外部精度管理試験として、今年度は厚生労働省で実施する「登録試験検査機関間比較による技能試験」に参加し、イソリフラボンの定量試験を行った。結果は厚生労働省に報告し、正常に試験運営されていることが保証された。

6. 計量器適正使用対策

(1) 計量器管理と東京都計量検定所の巡回検査の周知

新たに開設した薬局が検査を受けられるよう東京都計量検定所に新規薬局に関する情報提供を行った。

7. 「図書企画・編纂・出版」事業

(1) 「都薬雑誌」の編集・発行

会員をはじめ薬剤師にとって身近であり、すぐに活用できる情報誌となることに留意しながら企画・編集を行い、月刊誌「都薬雑誌」を 12 回発行した。

本会の各委員会委員長に「巻頭言」を執筆いただき、委員会活動を紹介すること

によって本会の会務内容の周知に努める一方、より身近な情報誌「都薬雑誌」となることを目指して、読者の趣味を紹介する新シリーズ「趣味のページ」を開始した。

「都薬雑誌第39巻」で特徴ある企画としては、以下のような企画が挙げられる。

地域包括ケアシステムの構築に向けて、多職種連携を進める手法である「ケア・カフェ」の解説と実際の開催方法等について紹介した。

薬剤師が身近な街の相談者となるための知識として、障害者相談支援専門員や重症心身障害児(者)等相談支援専門員、行政書士等の業務とその活動を紹介とともに、在宅で活躍する薬剤師の参考に供するためのシリーズ「腹膜透析」や「疾患からみる栄養学」、がん薬物療法における知識として「抗がん剤による医療スタッフへの暴露対策」を掲載した。

薬剤師業務に深く関わりのあるポリファーマシーについて、薬剤師がいかにポリファーマシーに介入するかを実際の介入事例を紹介しながら解説するシリーズ「ポリファーマシー解消に向けた薬剤師の取り組み」を掲載した。

医療関係者のみならず、患者にも大きな不安を与えた偽造医薬品事件について取り上げ、東京都が取り組む偽造薬対策と、その対応を呼びかけた。

その他、新シリーズとして「活性型ビタミンDの基礎知識」「OTC医薬品情報」「脈管の世界」「肺の世界」「ほじょ犬とは」「軽度認知障害の対応に取り組む地域の活動」など、多岐にわたる話題を取り上げた。

また、「都薬雑誌バックナンバー」第38巻(2016年発行)をホームページに掲載したことにより、38年間分のバックナンバーを閲覧し活用することを可能とした。

(2)『医薬品情報』・『DIレター』の発行

東京都からの委託を受け、平成29年7月～平成30年3月まで医薬品情報No.1～5、DIレターNo.1～4を各々隔月に発行した。

医薬品情報では主に医薬品の使用上の注意改訂、副作用について解説したほか、今年度は地域包括ケアシステムへの参画並びに在宅医療支援における必要な知識「地域包括ケアに関連して」として第1回 近藤幸男 学術委員会副委員長、第2回 串田一樹 昭和薬科大学 特任教授、第3回 篠原久仁子フローラ薬局 河和田店と関利一 ひたちなか総合病院 薬局長、第4回 丸山節子 ファーコス薬局成城 居宅介護支援事業所 主任介護支援専門員、第5回添石遼平 八王子薬剤センター薬局に執筆いただいた原稿を掲載した。また、DIレターには医薬品適正使用情報等を掲載した。

(3)調剤報酬関連の冊子の企画、編纂

(3. 医療保険対策 3-1 医療保険対策 (3)「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成の項参照)

8. 医薬品・情報管理センター事業への支援

(1) 医薬品・情報管理センターを拠点とする薬事情報提供活動の推進

薬と健康の週間用資料、DI レター、薬事関係資料、偽造処方箋情報及び医療保険情報などを提供し、管理センターの情報中継機能を支援した。

また、管理センターの役割として、大規模災害で東京が被災した際の薬剤師班活動を支える業務の対応、他道府県からの災害支援応募薬剤師の資格確認や活動場所の指示、活動方法の伝達等、その他災害時の情報拠点となるよう態勢整備を計画した。

(2) 医薬品・情報管理センター備蓄医薬品検索システムの維持・管理

平成 27 年 7 月から医療用医薬品に JAN コードが記載されなくなったことから、同年にシステムの改修を実施し、新たに添付文書情報の表示機能や後発医薬品比較サイトとの連携等の機能を追加し、利用者の利便性の向上を図った。また、医薬品マスター等の更新を適宜行い、システムの安定運用に向けた対応を継続的に実施した。

(3) 薬局間の備蓄医薬品検索システムの維持・管理

(8. 医薬品管理センター事業への対応 (2) 医薬品管理センター備蓄医薬品検索システムの維持・管理を参照)

(4) 後発医薬品の備蓄に関する情報提供

平成 29 年 10 月調剤分を対象にした第 9 回地域医薬品使用実態調査で得られた調査結果の一覧表を掲載するとともに、全医薬品の調剤回数を後発医薬品比較サイトのデータに反映させ、最新情報の提供に努めた。

- ① 後発医薬品の調剤回数は全医薬品対比 42.0%、調剤数量は同 39.1%、薬剤料は同 16.4%で、それぞれ増加していた。
- ② 全処方箋に占める一般名処方を含む処方箋の割合は 49.3%と推測された。
- ③ 後発医薬品の備蓄品目数は、後発医薬品調剤体制加算 1 の薬局が 441 品目、体制加算 2 の薬局が 410 品目、体制加算を届出ていない薬局が 334 品目であった。
- ④ 汎用医薬品における後発医薬品変更率は、アロプリノール錠 82.7%、レバミピド錠 75.1%、アムロジピン錠 74.4%、ロキソプロフェン Na 錠 69.6%、ファモチジン錠 71.9%、カルボシステイン錠 67.4%、テプレノンカプセル 66.9%、ランソプラゾール錠・カプセル 74.8%、トラネキサム酸錠・カプセル 62.8%、エチゾラム錠 48.4%、カルボシステインシロップ 46.7%、カルボシステインドライシロップ 48.5%、ツロブテロールテープ 40.0%、アリピプラゾール錠 17.2%、

テルミサルタン錠 57.8%、モンテルカスト錠 67.5%、ジエノゲスト錠 82.4%、エンテカビル錠 31.2%であった。

(5) 医薬品・情報管理センターを核とした医療用医薬品分譲業務の調査

管理センターの医薬品小分け分譲の利用状況は、【資料 5】のとおりであった。

(6) 医薬品・情報管理センター運営に関する支援

平成 24 年度より全医薬品・情報管理センターの開設者が地区薬剤師会となつたことから、「平成 24 年度管理センター所長・実務担当者会議」において、医薬品・情報管理センター設置運営基準を示し、「医薬品・情報管理センターの設置及び運営に関する覚書」を平成 25 年度に各センターと取り交わし、地区薬剤師会が運営する医薬品・情報管理センター運営要綱の提出を受け、当会にて確認保管を行い現在に至っている。

9. 薬事衛生・公衆衛生事業

(1) 都民に対する一般用医薬品の適正使用の啓発

(2-7. (1) 健康サポート薬局の役割、かかりつけ薬剤師・薬局の役割、各種事業等の都民への周知の項参照)

(2) 『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施

本年度も東京都の委託を受けて、薬事関係法規教本、自主点検表を作成し、地区薬剤師会を通じて各薬局・店舗に配布した。また、薬事衛生自治指導員に対して下記のとおり講習会を実施し、「薬事関係法規教本 2017 年追補版」や自主点検表の内容説明のほか、巡回指導時の留意事項や報告書の記載方法等について説明を行った。

【薬事衛生自治指導員全体講習会】

期 日：平成 29 年 9 月 9 日（土） 19:00～20:30

場 所：連合会館 大会議室

受講者：242 名

内 容：

最近の薬務行政について：

東京都福祉保健局健康安全部麻薬・医薬品安全対策専門課長 平井 正博
薬事関係法規教本 2017 年追補版について

東京都薬剤師会薬事委員会委員長 関口 博通
自治指導事業と巡回指導について 東京都薬剤師会 理事 関根 克敏

正本の「薬事関係法規教本 2016 年版」発行以降の変更点・追加内容等について解説した。改めて薬剤師としての自覚を促すために薬剤師法(抜粋)を掲載したほか、適正な流通の確保に関する通知や薬局間譲受・譲渡に関するガイドラインを収録し、関係法令の周知及び薬剤師の責務の再確認を行った。

また、施行から 1 年以上が経過した健康サポート薬局について Q&A を掲載し、同時に公益財団法人 日本医療機能評価機構のヒヤリ・ハット事業への参加を促すため、登録方法及び報告手順について掲載したこと等が説明された。

自主点検表では例年、関係法令遵守のためのチェック項目のうち 6 項目を重点事項に設定し、前年度からの改善状況を確認している。今回は保険薬局及び保険薬剤師療養担当規則の考え方の再認識を促すため「保険調剤に係るポイントは付与していません。」を重点事項に追加したこと、1%以下であればポイントの付与は可能という考え方を通知の拡大解釈であることが説明された。

また、薬と健康の週間の時期に、実際に巡回して相互チェックを実施し、不備な点があればその場で改善いただくこと、今回も昨年同様に重点確認事項のほか、麻薬小売業や高度管理医療機器等販売業・貸与業の許可の有無についても確認し、報告いただくこと等の説明をした。

(3) 医薬品医療機器等法の定着のための施策の実施

管理薬剤師研修会の実施：管理者の遵守事項全般にわたる研修会として管理薬剤師研修会を以下のとおり開催した。

【管理薬剤師研修会】全 4 講座

期　日：①10月 26 日(木) ②11月 9 日(木) ③11月 22 日(水) ④12月 2 日(土)

場　所：①②③都薬会館 3 階会議室

　　　④TKP 神田ビジネスセンター ANNEX ホール 8J

受講者：30 名(うち全講義受講者 26 名)

内　容：

管理薬剤師の役割 東京都薬剤師会 副会長 藤田 義人

介護保険制度 東京都薬剤師会 理事 根本 陽充

一般用医薬品の販売について～かかりつけ薬剤師・薬局の充実をめざして～

東京都薬剤師会理事 西澤 啓子

生涯学習／医薬品情報 東京都薬剤師会 理事 石川さと子

薬事関係法規 東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課 光川 篤志

医療安全 東京都薬剤師会 理事 濱野 明子

患者のための薬局ビジョンを踏まえ、管理薬剤師が知っておくべきこと

東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

健康サポート薬局について

東京都福祉保健局健康安全部 薬事監視担当 河野 安昭

グループディスカッション

(4) 薬物乱用防止啓発事業への協力

都内の青少年を対象に薬物に対する正しい知識及び乱用の恐ろしさや弊害を啓発するため、東京都の委託を受け、各地区において青少年薬物乱用防止講習会が開催された。66名の薬物専門講師等を含む本会会員により小中学校、高等学校、大学や専門学校等で、239回の講習会が実施され、延べ23,956名が受講した。会員の学校薬剤師による担当校における薬物乱用防止講習会も着実に実施されており、本会に実施報告があった担当校での報告数をあわせると257回の講習会が実施され、延べ26,214名が受講したこととなる。

東京都が実施している「薬物専門講師証明制度」の周知に努め、交付申請に係る事務を行い、交付が円滑に行われるよう協力した。今年度、申請のあった会員のうち証明の要件を満たす40名に薬物専門講師証明書が交付された。これにより、東京都が実施している薬物専門講師証明制度による本会会員の有効期限内証明書交付者数は平成29年10月1日現在、93名となった。

また、東京都の薬物乱用防止対策への協力依頼を受け、「東京都大麻・けし撲滅運動啓発ポスター」「薬物乱用防止啓発用DVD・ポスター・リーフレット」「麻薬・覚醒剤乱用防止運動啓発用ポスター・リーフレット」等を各地区に配布した。

本会公衆衛生委員会作成の、小学校高学年を対象とする「薬物乱用ダメ！ゼッタイ！」フラッパー型の啓発資材は、本会4地区の薬剤師会をはじめ、会員の学校薬剤師23名、東京都薬物乱用防止推進協議会等に計1万5千部を頒布し、薬物乱用防止講習会等で今年度も広く活用された。

(5) 都民に対する感染症予防の周知徹底と予防対策の啓発

近年の国際交流の活発化により、新興・再興感染症の出現や感染症の急速な拡散が国際的に脅威を与えている中、都民の健康な生活を確保することを役割とする薬剤師が、薬局、在宅、高齢者施設、学校、災害時における医療現場等での感染症予防対策活動の参考に供するための冊子「感染症予防に関するQ&A」を1万部作成した。本冊子は、平成29年度「薬と健康の週間」における都内街頭相談所等で配布され、各地区的感染症予防啓発活動で活用された。

(6) 健康日本21(第二次)に基づいた、都民に対する健康増進活動への協力と推進 健康増進法に基づき策定された、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための

基本的な方針の具体的な計画である健康日本 21(第二次)に基づき、都民に対し会員が講習会等を通じて、その健康増進活動の協力や推進を啓発・支援する際の活用資材として、市民講習会用テキスト「くすりの正しい使い方」「タバコと健康」「アルコールと健康」「健康関連機器について」のパワーポイントスライドをホームページ「学校薬剤師活動支援情報」Web サイト上に公開した。

(7)『薬と健康の週間』事業の実施

「薬と健康の週間」(10月 17 日～23 日)において、日本薬剤師会、厚生労働省、東京都及び関係機関と協調し都内 47 地区で「薬の街頭相談所」を開設した。街頭相談所と薬局等に下記のポスターをはじめ各種資料を配布し、都民へ薬の正しい使い方等の啓発並びに情報発信を行った。

【ポスター、資料等の配布】

「薬と健康の週間」(ポスター)一1 薬局/店舗 1 枚

「薬の無料相談」(ポスター)一1 会場 2 枚

「薬との上手なつきあい方」一1 会場 100 部(1 薬局/店舗 5 部)

「知っておきたい薬の知識」一1 会場 200 部(1 薬局/店舗 3 部)

「東京都薬局機能情報提供システム t-薬局いんふお」一1 会場 300 枚
(1 薬局/店舗 2 部)

「地下鉄路線図」都薬作成一1 会場 200 枚(1 薬局/店舗 50 枚)

「薬の相談記録」(個票)一1 会場 100 枚

「健康食品 情報共有シート」一1 会場 20 枚

「健康食品を使うとき・・こんなとき調べてみよう 相談しよう」一1 会場 100 部

「ご存じですか? うっかりドーピング」一1 会場 100 部

「医薬品副作用被害救済制度チラシ」一1 会場 50 部

「感染症予防に関するQ&A」一1 会場 20 部

「ジェネリック医薬品の疑問にも薬剤師がお答えしますチラシ」一1 会場 50 枚

「ジェネリック医薬品 Q&A」一1 会場 80 部

「医薬品医療機器総合機構ポスター」一1 薬局/店舗 1 枚

【薬の街頭相談所の開設】

各地区において 47ヶ所の街頭相談所を開設し、薬事に関する無料相談、医薬品・防災などの展示、講習会などを実施し、都民の薬に対する关心に応え、PR 効果をあげた。また、介護相談、薬物乱用防止啓発活動等も実施した。なお、薬事相談については東京都病院薬剤師会の協力を得て実施した。

街頭相談所開設場所は次のとおりである。(カッコ内は地区薬剤師会名)

日本橋、京橋、港区、新宿区、文京区、下谷、浅草、墨田区、江東区、品川区(品川・荏原)、目黒区、大田区、世田谷区(世田谷・玉川砧)、渋谷区、中野区、杉並区、豊島区、北区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区、西多摩、八王子市、日野市(南多摩)、多摩市(南多摩)・稲城市(南多摩)、府中市、調布市、狛江市、小金井市(多摩中央)、国分寺市(多摩中央)、立川市(北多摩)、昭島市(北多摩)、国立市(北多摩)、東大和市(北多摩)、武蔵村山市(北多摩)、町田市、武蔵野市、三鷹市、西東京市(西武)、小平市(西武)、東久留米市(西武)、東村山市(西武)、清瀬市(西武)

(6) 自殺防止普及啓発の推進

平成 28 年の自殺対策基本法改正等を踏まえ、平成 29 年に設定された「自殺総合対策大綱」にある「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現に向けた、厚生労働省からの啓発活動及び支援策等の推進協力依頼を受け、地区薬剤師会を通じて広報用ポスター(自殺予防週間並びに自殺対策強化月間)を各薬局に配付するとともに、薬剤師が自殺対策のゲートキーパーとして地域関係機関と連携の上、各種相談支援等に取り組んでいくよう周知した。また、「自殺総合対策東京会議」へ参加し、意見を述べた。

(7) 東京オリンピック・パラリンピックを見据えたアンチ・ドーピング活動への協力

都内のスポーツ選手等の相談を受け付ける都薬アンチ・ドーピングホットラインには、597 件の相談があり、薬事情報課における全問合せ数の 62.1% を占めている。アンチ・ドーピング活動について、本年度も東京都より「医薬品の適正使用推進事業」として助成を受けており、「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック 2017 年版」を地区薬剤師会を通して各薬局に配布した。

「アンチ・ドーピング活動地区薬剤師会指導者講習会」は、各地区薬剤師会代表者と情報共有をすることを目的に本年度も開催した。

公認スポーツファーマシストへの活動支援として、「公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会」を開催し、都内のみならず、他県から多くのスポーツファーマシストの参加を得た。

その他、ドーピング防止のための資材として、一般向け啓発パンフレットの配布を行ったほか、前年度にうつかりドーピング防止のために作成した、お薬手帳や健康保険証に貼付可能な「アスリートのためのドーピング防止シール」の活用に関するアンケート調査の結果について第 50 回日本薬剤師会学術大会でポスター発表を行った。

【アンチ・ドーピング活動地区薬剤師会指導者講習会】

期　日：平成 29 年 11 月 11 日(土) 18:00～20:00

場　所：TKP 神田ビジネスセンター 3 階会議室

受講者：65 名

内　容：

- 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一
オリンピック・パラリンピック 1000 日前フェスタにおける活動 品川・荏原薬剤師会 原山真理子
アンチ・ドーピングガイドブックの解説 安心カード等の利用方法 アンチ・ドーピング活動推進WG委員 高松 謙悟
オリンピック・パラリンピック会場となる地域について アンチ・ドーピング活動推進WG副委員長 濑谷 雅行
アスリート用ドーピング防止シール アンチ・ドーピング活動推進WG委員 長谷川 真帆
第 50 回学術大会におけるアンチ・ドーピング関連の演題発表の概要 アンチ・ドーピング活動推進WG委員 藤本 和子
質疑応答
総括 アンチ・ドーピング活動推進WG委員長 小林 百代
閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 大木 一正

【スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会】

期　日：平成 30 年 1 月 21 日(日) 13:00～16:00

場　所：日本教育会館 一つ橋ホール

受講者：362 名

内　容：

- 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一
「愛顔(えがお)つなぐ えひめ国体」におけるアンチ・ドーピング活動
愛媛県薬剤師会アンチ・ドーピング特別委員会 副委員長 足永 貴義
アンチ・ドーピングに関する最新の情報提供 日本アンチ・ドーピング機構 専務理事 浅川 伸
スポーツ仲裁・規律パネルについて 日本アンチ・ドーピング規律パネル委員長
立教大学 教授・弁護士 早川 吉尚
国体バスケットボールチームにおけるスポーツファーマシストの活動について
アンチ・ドーピング活動推進WG委員
高齢者保健医療総合センター 浴風会病院 薬剤科長 小竹 慶子

視覚障害者選手を取り巻く環境について

北京パラリンピック ゴールボール日本代表 高田 朋枝
パネルディスカッション（講演者全員による）

司会： アンチ・ドーピング活動推進WG委員長 小林 百代
閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 大木 一正

10. 組織強化対策

(1)会員増加策の検討

会員増強策の一環として、会費のあり方について検討を行うため、薬剤師会に向けたアンケート調査を実施した。また、魅力のある事業の実施等について、引き続き検討を行った。その他、本会の広報等を目的に、平成23年3月に運用を開始した「とやく携帯メルマガ」は、平成30年3月30日現在、通算1,699号の配信を達成した。

(2)公益法人制度への対応

平成25年4月1日に公益社団法人として登記して以後、新法人法に基づく定款並びに諸規程の定めに則って会務を遂行している。

定款及び法人法の定めにより、平成29年6月の通常総会終了を以て任期満了となった役員について、役員選考規程及び会長候補者・副会長候補者の選出に関する規則に基づき、役員選挙管理委員会が統括して、会長候補者1名、副会長候補者4名を含む理事23名と監事2名を第91回通常総会(平成29年6月17日開催)において選出した

また、2年ごと7月末日までに実施する旨の定款及び法人法の定めがある代議員・予備代議員について、代議員選挙管理委員会が統括して、平成29年6月に選挙区ごとに選挙が実施され、平成29年7月14日付けにて、代議員143名、予備代議員127名を選出した。

(3)会員情報管理システムの維持と拡充

会員情報管理システムの安定的な運用を目的に、本年度も引き続き、各種OA機器の整備・拡充を行った。

(4)インターネット等を活用した本会と地区・職域薬剤師会間の連携強化

平成19年2月より、地区職域薬剤師会において、地区・職域薬剤師会会长会資料を有効に活用いただくため、電子データによる提供を開始し、本年も引き続き実施

した。また、平成 25 年度に運用を開始した、地区薬剤師会への電子メールによる情報配信システムを活用し、タイムリーな情報伝達に努めた。さらに、平成 27 年 4 月 1 日にリニューアルしたホームページについても、適宜更新を行い、地区・職域薬剤師会への情報提供に努めた。

(5) 職種部会(製薬部会・卸勤務薬剤師部会・行政薬剤師部会)活動への支援

各事業などにおいて、連携を図り支援を行った。

(6) 学校薬剤師活動への支援と部会の検討

日本薬剤師会学校薬剤師部会が実施する事業等の周知とブロック内の情報共有及び意見交換等を目的とした「学校薬剤師ブロック連絡会議」の開催・運営について、日本薬剤師会からの協力依頼を受け、前年度に引き続き、「学校薬剤師東京ブロック連絡会議及び担当者会議」を下記の通り開催した。本会議は、各地区薬剤師会学校薬剤師担当者等との連絡調整、連携強化及び学校薬剤師活動の支援を目的として本会が平成 25 年度より開催してきた「学校薬剤師担当者会議」の開催趣旨を同一とするものである。

今年度は、日本薬剤師会学校薬剤師部会から活動方向等が示され、その後昨年度、各地区的取り組みの一例として紹介された文京区学校薬剤師会本郷地区からの「食物アレルギーとアナフィラキシー」に関する講演で、各地区に調査依頼したアンケート結果の報告があった。食物アレルギー緊急対応の取り組みの進捗状況には各地区で格差はあるが、エピペン?を所持する児童・生徒数を把握している地区では積極的に説明会等を学校で実施している実態がアンケート結果から明らかにされた。教育現場におけるアレルギー事故に備えた訓練の必要性が、引き続き説かれた。

「学校薬剤師が関与するくすり教育」では、学校薬剤師が担当校のくすり教育に積極的に関与参画するための方策等が示され、その後各地区からの質問など学校薬剤師活動等の協議がなされた。

本会議では、各地区的学校薬剤師活動の支援を目的とした事業推進の一環として、各地区で把握している学校薬剤師の状況を調査依頼することとし、「学校薬剤師リスト」の作成を各地区に依頼した。調査結果は【資料 6】のとおりである。

また、学校薬剤師活動を支援するための情報、資料等を掲載した都薬ホームページの「学校薬剤師活動支援情報」Web サイト上に、学校薬剤師活動支援資材のくすり教育資材として、新たに「東京都薬剤師会 市民講習会用テキスト：くすりの正しい使い方・タバコと健康・アルコールと健康・健康関連機器」のパワーポイントスライドを公開した。

本会内に学校薬剤師部会を設置する案については東京都学校薬剤師会と協調しな

がら引き続き検討していく。

【学校薬剤師東京ブロック連絡会議及び担当者会議】

期　日：平成 29 年 11 月 30 日(木) 18:00～20:35

場　所：TKP 神田ビジネスセンター 3 階 301 会議室

出席者：各地区薬剤師会 学校薬剤師担当役員・学薬活動に関して指導的立場
にある学校薬剤師で本会会員 76 名

内　容：

開会挨拶	東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一
日本薬剤師会代表挨拶	日本薬剤師会 副会長 乾 英夫
学校薬剤師部会活動の現状報告と仮題等について～学校薬剤師活動の充実等に向けて～	日本薬剤師会 学校薬剤師部会長 村松 章伊
昨年のアンケート結果報告と校内アナフィラキシー時の対応について	東京都薬剤師会 学校保健委員会 委員 古米 弘幸
学校薬剤師が関与するくすり教育	東京都薬剤師会 学校保健委員会 委員 加藤 哲太
東京ブロックにおける学校薬剤師活動等に関する協議	東京都薬剤師会 副会長 大木 一正
閉会挨拶	

(7) 第 50 回日本薬剤師会学術大会の開催

以下の日程等で、第 50 回日本薬剤師会学術大会を開催した。

(詳細は、P63～P72 第 50 回日本薬剤師会開催報告に記載)

期　日：平成 30 年 10 月 8 日(日)、9 日(月・祝)

場　所：東京国際フォーラム、JP タワー ホール&カンファレンス

テーマ：Pharmacists Practicing with Pride

～新たな時代に向けて、さらなる飛躍～

参加者数：13,415 名（うち会員外 10,659 名）

講演等：特別記念講演 1 題、特別講演 7 題、分科会 47 題、

口頭発表 261 題、ポスター発表 567 題、都民公開講座

(8) 講習会・研修会実施における担当部署間の連携強化

研修会・講習会担当役員打合せ会及び役員会での検討を踏まえ、平成 29 年度の活動テーマを「薬剤師の能力と薬局機能の向上を目指して」に決定した。各研修会・講習会は、このテーマに沿って企画・実施された。

1.1. 災害時等における医療救護対策

(1) 災害時等、医療救護体制の整備

東京都は東日本大震災での教訓を踏まえ、都内での大規模災害発生時における医療機能の円滑な確保のため、平成24年度より都内12ヶ所に二次保健医療圏を単位とした「地域災害医療連携会議」を設置した。この連携会議に当会から役員が各々出席した。

(2) 災害時医療救護に係る災害薬事コーディネーターの養成及び実務講習会の開催

災害時における薬剤師の役割、病院と薬局・薬剤師と多職種の連携、東京都の災害対策の方針、災害医療の特殊性等を理解し、災害薬事コーディネーターとして地域での災害医療に貢献できる薬剤師リーダーの知識を習得することを目的とし、講義、グループワークの内容で2回開催した。

【災害時薬事活動リーダー研修】

期日：第1回 平成29年11月12日(日) 9:30～18:00

第2回 平成30年2月25日(日) 9:30～18:00

場所：第1回 帝京大学板橋キャンパス(板橋区)

第2回 帝京大学板橋キャンパス(板橋区)

参加者：第1回 44名(地区薬剤師会37名、東京都病院薬剤師会7名)

第2回 35名(地区薬剤師会27名、東京都病院薬剤師会8名)

内容：

東京都医師会の活動及び医療救護班の活動について

東京都の災害医療体制・医薬品等供給等について

DMATの活動

日本赤十字社の医療救護活動について

災害拠点病院の準備体制

自衛隊の医療救護活動について

薬剤師班の活動について

ケーススタディとグループワーク

【東京都薬局災害対策講習会】「災害に対する対応力向上」講習会

東日本大震災及び熊本地震の被災地での医療救護活動を踏まえ、災害時の薬局・薬剤師の役割と活動について、理解促進と災害時に対する対応力を高める講習会を行った。

期日：平成29年11月16日(金) 18:00～20:20

場所：東京体育館

出席者：2,159名

内 容：

挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一
東京都福祉保健局健康安全部 薬務課長 早乙女 芳明
東京都における災害医療救護体制について
東京都福祉保健局医療政策部 災害医療担当課長 清武 直志
東京都医師会の活動及び医療救護班の活動について
東京都医師会 大桃 丈知
災害時における薬剤師の役割について
東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

(3)防災訓練への参加協力

東京都では、多摩地域を震源とする非常に強い地震が発生、多摩部の広い範囲で震度6弱以上、特に調布市周辺では震度6強の想定で、平成29年9月3日(日)に「平成29年度東京都・調布市合同総合防災訓練」を実施した。当訓練において、東京都健康安全部では「医療救護活動訓練」を実施した。

本会は災害対策基本法に基づく指定地方公共機関となっており、本部役員、災害対策委員会、調布地区、府中及び狛江地区より薬剤師班を6班編成し、訓練參加した。多摩川児童公園会場(調布市)において、災害薬事センター、医薬品調剤所を設置し、医薬品等供給訓練(医薬品等供給要請訓練・医薬品搬入訓練)、調剤訓練、OTC供給並びにトリアージ訓練を行った。

(4)大災害時における薬局BCP(事業継続計画)の更新

災害発生時の薬剤師の活動として、薬局では限られた資源で営業の継続または早期の再開が必要になるため、各地区薬剤師会の実情に応じた業務継続計画(BCP)の作成用ひな型をホームページに掲載、維持・管理した。

(5)災害時等における地区支援のための事務局機能維持体制の見直し

災害時に会員等の安否確認を迅速に行うため、平成28年度に綜合警備保障㈱提供の「ALSOK 安否確認サービス」を契約し、インターネット網を利用したEメールでの連絡システムを採用した。平成29年度は、地区薬剤師会に対し、システムの理解、使用方法及び加入の薦めを行い、予行演習を兼ねたテスト配信を行い、災害時の備えとした。

(6) 東京都国民保護計画への体制整備

平成 19 年 3 月に作成した「国民保護業務計画」の役員・職員連絡網に基づいて、インターネット網での E メールを利用した、綜合警備保障㈱提供の「ALSOK 安否確認サービス」の導入、連絡試験を実施した。

(7) 新型インフルエンザ等対策の推進

平成 21 年に発生した新型インフルエンザの急速な流行拡大を受け、東京都は新型インフルエンザ患者の国内発生に備え、関係諸機関と連携を図りながら抗インフルエンザウイルス薬等の安定供給等、必要な対策について協議を行っている。東京都が実施する新型インフルエンザ等感染症地域医療体制整備事業に協力し、医療提供体制の確保を図った。また平成 25 年に施行された、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく特定接種(医療分野)の事業者登録、申請方法等を周知し、季節性インフルエンザ対策として、東京都で作成したインフルエンザ対策普及啓発用ポスター等の配布に協力した。

12. 会員奉仕事業

(1) 学術出版物等の斡旋

平成 29 年度中に約 7,900 冊、会員価格にして約 3,485 万円余の書籍の斡旋を行った。主な書籍斡旋数は「保険薬事典プラス平成 30 年 4 月版」、「薬価基準点数早見表平成 30 年 4 月版」、「今日の治療薬 2018」、「治療薬マニュアル 2018」などであった。

また、各種研修会に出版社に出店を求め、会員の学術出版物入手の便宜を図った。

(2) 共済制度の運営

東京都薬剤師会共済会の加入者は、平成 30 年 3 月末日現在 198 名(209 口)であり、29 年度は慶弔金として 4 件の対象があった。また、日本薬剤師会共済部への加入手続きを含む各種手続きについても事務を代行した。

(3) 制度融資の紹介・斡旋

日本薬剤師会が提携する各銀行よりの制度融資「薬局ローン」について、問い合わせに応対し資料を送付するなどの紹介を行った。

(4) 企業年金保険等及びがん保険の斡旋

会員の厚生事業として、企業年金保険(明治安田生命・ジブラルタル生命、3 月末日現在 6 名)及びがん保険(アメリカンファミリー、3 月末日現在の加入 80 件)の団体

契約を継続した。

(5) 薬剤師賠償責任保険制度の周知と加入促進

日本薬剤師会薬剤師賠償責任保険への加入について、地区・職域薬剤師会会长会及び本会ホームページへの掲載等により勧奨した。なお、平成30年3月末日での契約数は、薬局契約数2,114件、薬剤師契約数482件、総数：2,596件であった。また、個人情報漏えい保険の契約数は899件、薬剤師休業補償保険の契約数は、36件であった。

(6) 薬剤師年金並びに薬剤師国民年金基金の斡旋

日本薬剤師年金への加入について、会員の入会時に加入を案内する等必要な手続きを行った。本会会員のうち平成30年3月末日現在の加入者は222名である。また、日本薬剤師国民年金基金についても加入を奨励し、新規加入及び加入継続に必要な手続きの案内を行った。

13. その他

(1) (公社)日本薬剤師会の諸施策に対する協力と意見具申

かかりつけ薬剤師・薬局、地域包括ケアシステムにおける多職種との連携、調剤報酬・診療報酬改定等について、日本薬剤師会総会において意見具申するとともに、日本薬剤師会が実施する各種事業に協力した。

(2) 日本薬剤師会関東ブロック薬剤師会との協調

関東ブロック(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県の各都県薬剤師会)の連携を強化するため、下記関東ブロック会議に出席し日本薬剤師会総会開催にあたり日本薬剤師会の事業について協議し、連携の強化を図った。

第1回：平成29年5月28日(主催：群馬県薬剤師会)

第2回：平成30年2月18日(主催：栃木県薬剤師会)

(3) (一社)東京都病院薬剤師会との連携

各種事業に対し意見・情報交換を行った。『薬と健康の週間』事業における街頭相談、また、『認定実務実習指導薬剤師の養成及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応』事業の一環である、「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ(9回開催)」における修了者計166名の研修など、相互協力を行った
(2-1. (6)認定実務実習指導薬剤師の養成及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応)

ュラムへの対応の項参照)。

(4)(一社)東京都学校薬剤師会との連携

学校薬剤師活動に対し意見・情報交換を行い、各種事業に対する相互協力を行った。

(5)東京都並びに関連官公庁への協力と意見具申

東京都福祉保健局をはじめ関係官庁に対しては、薬事制度・公費負担医療制度等に関連して連絡を密にし、各種事業に対しては可能な限りの支援・協力を行った。

(6)(公社)東京都医師会・(公社)東京都歯科医師会との連携

東京都医師会・東京都歯科医師会とは、意見・情報交換を行い、各種事業に対する相互協力を行った。また、平成28年度から、「東京都三師会講演会」を年1回開催し、更なる連携強化に向けた取組みを行っている。平成29年度は、本会が幹事団体として、以下の講演会を開催した。

【東京都三師会講演会】

期 日：平成30年2月8日(木) 18:00～19:30

場 所：東京都医師会館2階講堂

出席者：169名

内 容：

開会の辞 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

挨拶 東京都医師会 会長 尾崎 治夫

講演 ジェネリック医薬品の新たなロードマップ～80%時代を目指して～

国際医療福祉大学大学院 教授 武藤 正樹

質疑応答

閉会の辞 東京都薬剤師会 副会長 大木 一正

(7)(公財)日本薬剤師研修センター事業への協力

東京都薬剤師研修協議会として、研修認定薬剤師証の交付申請業務等を行い、(公財)日本薬剤師研修センターが進める薬剤師生涯教育事業に協力した。平成29年度における研修認定薬剤師証の申請数は5,972名(内訳：新規申請数4,805名、更新申請数1,167名)であった。【参考：平成28年度研修認定薬剤師証認定数4,157名(内訳：新規申請数3,217名、更新申請数940名)】

また、(公財)日本薬剤師研修センターが実施する、認定実務実習指導薬剤師認定制度に則り、認定実務実習指導薬剤師更新講習会を開催した(2-1.(6)認定実

務実習指導薬剤師の養成及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応の項参照)。

【平成 29 年度に申請のあった研修認定薬剤師証の認定数】

(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月)

	平成 29 年											合計	
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月		
新規認定数	805	469	879	735	609	208	191	168	164	173	190	214	4,805
更新認定数	40	34	80	137	210	109	84	106	84	70	104	109	1,167
認定数計	845	503	959	872	819	317	275	274	248	243	294	323	5,972

(8)(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構との協調

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構(以下、関東地区調整機構と称す)が推進する安定した実務実習受入れ体制の維持並びに平成 31 年からの改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習の実施に向けて、関東地区調整機構が運営する各種事業(認定実務実習指導薬剤師養成事業並びに実務実習施設割振調整事業等)に対する支援・協力を行った(2-1.(6)認定実務実習指導薬剤師の養成及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応の項 及び 2-2.(3)実務実習受入れ態勢の整備の項参照)。

(9)都内薬科大学・大学薬学部との連携

薬学教育に関する各種事業に対し意見・情報交換を行った。薬学教育 6 年制課程における長期実務実習の適切な実施への支援・協力をを行うとともに、本会が開催する講習会等への協力など、相互協力を行った。

(10)各関連団体・友好団体との交流・連携及びその強化

東京都薬剤師国民健康保険組合、(一社)東京医薬品卸業協会、(公社)東京医薬品工業協会、(公社)東京都医薬品登録販売者協会、(公社)東京薬事協会、(公社)東京生薬協会等の関連諸団体と連携を保ちながら協調を図った。

(11)都薬会館の保守等

受動喫煙防止推進の観点から、会館建物内に設置してあった喫煙室を撤廃し、建物内完全禁煙とした。平成 22 年に実施した館内リニューアルから 7 年が経過した 1 階から 5 階の内装及び付属備品について、経年劣化に伴う改修、電話設備の改修、消防設備の一部改修等を行った。

(12) その他の会員サービス

【会員向け年会費無料クレジットカードの斡旋】

本会会員ならば年会費が無料となるVISA ゴールドカードの発行を三井住友カード社と提携し、平成20年11月から会員に対して斡旋し、平成30年3月末日までに237名の会員に対して321枚が発行されている。

第50回日本薬剤師会学術大会開催報告

1. 大会概要

- 会期 2017年10月8日(日)・9日(月・祝)
- テーマ Pharmacists Practicing with Pride ~新たな時代に向けて、さらなる飛躍~
- 大会運営委員長 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一
- 会場 東京国際フォーラム
東京都千代田区丸の内3丁目5番1号
JPタワー ホール&カンファレンス
東京都千代田区丸の内二丁目7番2号 KITTE 4・5階

2. 大会参加者

	事前参加登録	当日参加登録	招待者	合計
大会参加者数	10,055名	3,004名	356名	13,415名
懇親会参加者数	639名	89名	384名	1,112名

3. 開会式

■第1部：式典

10月8日(日) 9:30～10:32 第1会場：3,900名／中継会場：150名

【開会式次第】

- 開会宣言 東京都薬剤師会 副会長 大木 一正
大会長挨拶 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
大会運営委員長挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一
来賓祝辞 ① 内閣総理大臣 安倍 晋三
② 厚生労働大臣 加藤 勝信
③ 文部科学大臣 林 芳正
④ 東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会 担当国務大臣 鈴木 俊一
⑤ 東京都知事 小池百合子
⑥ 東京都医師会 会長 尾崎 治夫

来賓紹介

祝電披露

薬剤師綱領楯引継

次回開催地挨拶 石川県薬剤師会 会長

中森 慶滋

■第2部：表彰式

10月8日(日) 10:35~10:55

○日本薬剤会賞 (6名、50音順)

大塚 宰(長野県)、加藤 昇一(神奈川県)、菊池 清二(青森県)、田代 和久(宮崎県)、

津戸富太郎(島根県)、幡野 仁(山梨県)

○日本薬剤師会功労賞 (9名、50音順)

相田 邦彦(神奈川県)、明石 貴雄(東京都)、大野 博巳(山梨県)、大谷 道男(岩手県)、

川原 利春(長崎県)、膳龜 昭三(埼玉県)、細野 澄子(静岡県)、松野 和彦(北海道)、

宮佐 俊昭(徳島県)

○日本薬剤師会有功賞(団体) (1団体)

一般社団法人 旭川薬剤師会(北海道)

■第3部：特別記念講演

10月8日(日) 11:00~12:00

「微生物創薬と国際貢献」大村 智 (北里大学 特別栄誉教授)

4. 学術プログラム

■特別講演1 (参加者数：900名)

日 時 10月8日(日) 14:00~15:00

会 場 第1会場 (東京国際フォーラム A棟 ホールA)

演題名 がん研究が導くゲノム医療

演 著 間野 博行 (国立がん研究センター研究所長/東京大学大学院医学系
研究科 教授)

■特別講演2 (参加者数：731名)

日 時 10月8日(日) 15:15~16:15

会 場 第1会場 (東京国際フォーラム A棟 ホールA)

演題名 認知症診療の現状と将来展望

演 著 羽生 春夫 (東京医科大学高齢総合医学分野 教授)

■特別講演3 (参加者数：1,310名)

日 時 10月8日(日) 14:00~16:00

会 場 第2会場 (東京国際フォーラム C棟 ホールC)

演題名 超高齢社会を見据えた未来医療予想図—フレイル予防から在宅ケアまでを俯瞰する—

演者 飯島 勝矢（東京大学高齢社会総合研究機構 教授）

■特別講演4 (参加者数：886名)

日 時 10月8日(日) 16:30~18:30

会 場 第1会場（東京国際フォーラムA棟 ホールA）

演題名 やさしさを伝えるケア技術・ユマニチュード

演者 イヴ・ジネスト（ジネスト・マレスコティ研究所 所長）

■特別講演5 (参加者数：1,260名)

日 時 10月8日(日) 16:30~18:30

会 場 第2会場（東京国際フォーラムC棟 ホールC）

演題名 一流芸人から学ぶ！人を笑顔に導く「笑いの五原則」

演者 Wマコト（放送作家）

■特別講演6 (参加者数：140名)

日 時 10月8日(日) 16:30~18:30

会 場 第3会場（東京国際フォーラムB棟7階 ホールB7(1)）

演題名 Pharmacists Practicing with Pride

～2025年の超高齢社会に向けて薬剤師は何をなすべきか～

演者 Carmen Peña-López（国際薬剤師・薬学連合（FIP）会長）

■特別講演7 (参加者数：233名)

日 時 10月9日(月・祝) 9:00~10:00

会 場 第1会場（東京国際フォーラムA棟 ホールA）

演題名 現場で働く薬剤師と学会との繋がり

演者 奥 直人（公益社団法人日本薬学会 会頭）

■分科会 ※TIF：東京国際フォーラム、JP：JPタワー ホール&カンファレンス

番号	会場名・部屋名 席数	セッション名	参加者 (人)
1	第3会場・TIF B7(1) 600席	地域住民のセルフメディケーション・セルフケアのための薬局におけるコミュニケーションについて	545
2	第4会場・TIF B7(2) 600席	【物から人へ】医療現場において求められる対人業務とは	350
3	第5会場・TIF B5(1) 215席	災害時の医療体制について	260
4	第6会場・TIF B5(2) 215席	医療倫理と薬剤師－日常業務で接する場面から－	255

5	第7会場・TIF D7 240席	改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習に向けて	205
6	第8会場・TIF D5 201席	これから医薬品卸の流通について —安全・安心・確実な流通を目指して—	197
7	第9会場・TIF D1 114席	かかりつけ薬剤師・薬局と薬局製剤・漢方	156
8	第10会場・TIF G701 190席	在宅での褥瘡医療における薬剤師の貢献	339
9	第17会場・JPカンファB 229席	メディナビとマイ医薬品集どう活用していますか？	110
10	第18会場・JPホール1 176席	副作用報告の推進に向けての薬・薬連携	80
11	第19会場・JPホール2 176席	薬局における医療安全対策	216
12	第20会場・JPホール3 176席	生涯学習の未来に向けて—他職種からのメッセージー	180
13	第4会場・TIF B7(2) 600席	地域に開かれた健康サポート薬局づくりを目指して	338
14	第5会場・TIF B5(1) 215席	耐性菌対策としてのOne Health approachと薬剤師活動	87
15	第6会場・TIF B5(2) 215席	妊婦・授乳婦への薬物療法を支える薬剤師の役割	590
16	第7会場・TIF D7 240席	摂食嚥下障害に関する多職種連携 —医師、栄養士と薬剤師の各職種のとらえ方—	221
17	第8会場・TIF D5 201席	患者が喜ぶ調剤 一明日から使える知識とスキルー	308
18	第9会場・TIF D1 114席	OTC医薬品の販売と受診勧奨	114
19	第10会場・TIF G701 190席	医療等分野におけるICT化の基盤整備と今後の展望—薬剤師・薬局はどう対応すべきか—	136
20	第17会場・JPカンファB 229席	臨床検査値を活用した薬局プレアボイドの現状と課題	320
21	第18会場・JPカンファ1 176席	かかりつけ薬剤師に役立つ情報管理とは	160
22	第19会場・JPホール2 176席	薬物乱用防止教育	179
23	第20会場・JPホール3 176席	受動喫煙防止に向けた多職種の連携	35
24	第2会場・TIF C 1,405席	ポリファーマシー対策、薬の安全性に視点を当てて	599
25	第3会場・TIF B7(1) 600席	後発医薬品の使用促進	220

26	第4会場・TIF B7(2) 600席	2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けての アンチ・ドーピング活動の推進	268
27	第5会場・TIF B5(1) 215席	疼痛ケアにおける薬・薬連携について	272
28	第6会場・TIF B5(2) 215席	新たな学校薬剤師の職務と学校環境衛生基準への対応-児童・生徒の安全・安心を守るために-	265
29	第7会場・TIF D7 240席	薬学教育実務実習の今後の在り方に関するワークショップ	105
30	第8会場・TIF D5 201席	かかりつけ薬剤師に必要なコミュニケーション能力を考える	217
31	第9会場・TIF D1 114席	モバイルファーマシー サミット	112
32	第10会場・TIF G701 190席	東京都における多職種連携の取組から見えてきた問題点	146
33	第17会場・JP カンファB 229席	服薬指導の実践 —どうしても飲めない高齢者にどう向き合うか—	350
34	第18会場・JP ホール1 176席	慢性腎臓病(CKD)患者に対して保険薬局薬剤師のできること・やるべきこと(基礎編)	270
35	第19会場・JP ホール2 176席	研究倫理と薬剤師	110
36	第20会場・JP ホール3 176席	小児医療を考える 一オール薬剤師でこどもたちを守ろう、育てようー	236
37	第22会場・JP カンファA3 132席	くすり教育ワークショップ —あなたも小学生のくすり教育指導者に！—	54
38	第2会場・TIF C 1,405席	「患者のための薬局ビジョン」を踏まえて開局薬剤師に期待すること	324
39	第3会場・TIF B7(1) 600席	災害時薬剤師の活動(トリアージ)	160
40	第4会場・TIF B7(2) 600席	慢性腎臓病(CKD)患者の処方監査と服薬指導 —現場での具体的取組と今後目指していくCKD患者への対策(応用編)—	850
41	第5会場・TIF B5(1) 215席	薬剤師による糖尿病薬物療法症例検討セミナー	63
42	第6会場・TIF B5(2) 215席	グローバル化の社会の中で求められる薬局の 感染症対策	100
43	第8会場・TIF D5 201席	地域を繋げる「ケア・カフェ」体験・開催方法習得ワークショップ	115
44	第10会場・TIF G701 190席	業界紙記者からみた薬剤師、薬局、薬剤師会	244
45	第17会場・JP カンファB 229席	健康サポート薬局の機能としての健康食品(サプリメント・機能性表示食品・スーパーフード等)へのアドバイス	250

46	第18会場・JPホール1 176席	認知症サポート薬剤師 e-ラーニング講座スク ーリング(全国版)	39
47	第20会場・JPホール3 176席	小児在宅医療の推進と薬局の役割	105

■日医・日歯・日薬会長パネルディスカッション (参加者数: 524名)

テーマ 2025年の地域包括ケアシステム構築に向けた連携について

日 時 10月9日(月・祝) 10:00~12:00

会 場 第1会場(東京国際フォーラム A棟 ホールA)

地域包括ケアシステムにおける多職種連携について

横倉 義武(公益社団法人 日本医師会 会長)

超高齢社会における新しい歯科医療提供体制構築に向けての現状と課題

堀 憲郎(公益社団法人 日本歯科医師会 会長)

2025年の地域包括ケアシステム構築に向けた連携について~薬剤師の視点から~

山本 信夫(公益社団法人 日本薬剤師会 会長)

■都民公開講座 (参加者数: 402名)

テーマ トップアスリートと考えるスポーツ界の話題【夏と冬】

日 時 10月9日(月・祝) 13:30~14:30

会 場 第1会場(東京国際フォーラム A棟 ホールA)

登壇者 荻原 次晴(スポーツキャスター)

中村 真衣(シドニー五輪銀メダリスト)

上村 直樹(東京理科大学薬学部教授/株式会社ファーミック)

■一般演題

採 択 840演題(口頭261演題、ポスター576演題、採択後取り下げポスター3演題)

不採択 9演題

■口頭発表

8会場にて、56セッション261演題について口頭発表を行った。

【カテゴリー別演題数】

演題分類	題数	演題分類	題数
医薬品適正使用(1)	5	かかりつけ薬剤師・薬局(1)	5
医薬品適正使用(2)	5	かかりつけ薬剤師・薬局(2)	5
医薬品適正使用(3)	5	かかりつけ薬剤師・薬局(3)	5
医薬品適正使用(4)	6	かかりつけ薬剤師・薬局(4)	5
医療安全対策、リスクマネジメント(1)	5	かかりつけ薬剤師・薬局(5)	4
医療安全対策、リスクマネジメント(2)	4	災害医療、危機管理(1)	4
薬物乱用防止	4	災害医療、危機管理(2)	4

薬局経営、医療経済、流通	4	生涯学習	4
服薬指導、薬歴管理(1)	5	スポーツファーマシスト・アンチドーピング(1)	5
服薬指導、薬歴管理(2)	5	スポーツファーマシスト・アンチドーピング(2)	5
服薬指導、薬歴管理(3)	5	薬学教育、実務実習	5
服薬指導、薬歴管理(4)	4	在宅医療、介護福祉(1)	4
薬剤情報提供、お薬手帳	5	在宅医療、介護福祉(2)	5
OTC 医薬品、セルフメディケーション	5	在宅医療、介護福祉(3)	5
薬局製剤、調剤技術、院内製剤/漢方(1)	4	在宅医療、介護福祉(4)	4
薬局製剤、調剤技術、院内製剤/漢方(2)	4	地域包括ケア、地域連携(1)	5
健康サポート薬局(1)	5	地域包括ケア、地域連携(2)	5
健康サポート薬局(2)	5	地域包括ケア、地域連携(3)	5
健康サポート薬局(3)	5	地域包括ケア、地域連携(4)	6
健康サポート薬局(4)	5	地域包括ケア、地域連携(5)	4
健康食品、サプリメント	3	医薬品情報、IT化	5
がん化学療法・緩和医療	5	薬薬連携(1)	5
特定健診、特定保健指導、地域保健活動(1)	4	薬薬連携(2)	5
特定健診、特定保健指導、地域保健活動(2)	4	薬薬連携(3)	4
学校薬剤師(1)	5	禁煙支援／医療倫理	4
学校薬剤師(2)	5	副作用、相互作用、イベントモニタリング	5
学校薬剤師(3)	5	チーム医療(1)	5
学校薬剤師(4)	4	チーム医療(2)	4

■ ポスター発表

12会場にて、36セッション 576演題についてポスター発表を行った。

今回は、貼り替え無しで、2日間に分けての発表となった。

【カテゴリー別演題数】

演題分類	演題数	演題分類	演題数
かかりつけ薬剤師・薬局	50	環境、公衆衛生	5
医薬品適正使用	50	在宅医療、介護福祉	57
後発医薬品	15	チーム医療	6
医療安全対策、リスクマネジメント	21	スポーツファーマシスト・アンチドーピング	8
副作用、相互作用、イベントモニタリング	15	漢方(薬局製剤を除く)	7
服薬指導、薬歴管理	40	地域包括ケア、地域連携	34
薬局経営、医療経済、流通	10	禁煙支援	8
健康サポート薬局	40	がん化学療法・緩和医療	7

特定健診、特定保健指導、地域保健活動	12	薬薬連携	23
薬学教育、実務実習	22	医薬品情報、IT化	10
生涯学習	15	感染対策、HIV	4
災害医療、危機管理	16	薬局製剤、調剤技術、院内製剤	4
薬剤情報提供、お薬手帳	18	輸液・経腸栄養管理、無菌調剤	2
薬剤管理、病棟薬剤業務	5	薬物動態(TDM・投与計画)	2
OTC 医薬品、セルフメディケーション	26	品質管理、製剤試験、治験・臨床試験	3
健康食品、サプリメント	6	医療倫理	1
薬物乱用防止	9	行政、広報	1
学校薬剤師	17	その他	7

◇ポスター優秀賞

「薬剤師の調査・研究活動への意識向上、並びに調査・研究内容のさらなる質の向上に資する」を目的に、ポスター優秀賞を選考した。審査は、12名の審査員により①学術性、②新規性、③将来性、④医療等への貢献、⑤示説・討論等の態度・応答等を含む総合的な視点から行われた。

【ポスター優秀賞選考結果】

	ポスター演題最終発表数	優秀賞エントリー数	最優秀賞	優秀賞
演題数	576 演題	439 演題	該当無し	5 演題

○優秀賞演題

P-2-099 高齢者への処方実態と多剤併用・有害事象への取り組み例

船見 正範（エムシー関東株式会社 ペパーミント薬局 [栃木県]）

P-2-115 後発医薬品の溶出試験において類似性が認められにくい薬剤の特徴に関する調査研究

杉浦 莉奈（名城大学薬学部 医薬品情報学研究室 [愛知県]）

P-2-143 Mechanism-based inhibition モデル並びに拮抗阻害モデルによる

CYP2D6 の薬物間相互作用の予測—paroxetine 及び metoprolol の併用—

平岡 秀夫（株式会社類家大学堂薬局 大学堂薬局 柏崎 [青森県]）

P-2-183 乳幼児に与える散剤のペースト化に必要な水分量の最適化と後発医薬品への適用に関する研究

福田 春香（株式会社アイリスファーマ [東京都]）

P-2-199 薬局薬剤師による疑義照会の医療経済学的効果に関する研究
～外来処方せんを対象として～

須賀 瞳（東邦大学薬学部実践医療薬学研究室 [千葉県]）

5. 協賛

■ ランチョンセミナー

10月8日(日) 12:30~13:30に開催。

参加者に対し、18テーマ（共催企業21社）、4,039席のランチョンセミナー事前申込を

7月12日(水)より受付開始し、受付終了までに全てのセミナーが満席となった。

【各セミナーの参加者数】

共催企業	演題名	参加者数
武田薬品工業(株)	糖尿病治療の新知見～食事療法から薬物療法まで～	930
グラクソ・スミスクライン(株)	明日からできる！実践吸入指導	500
大塚製薬(株)	乳房の健康と術後のQOL向上を目指して エクオールの可能性	450
大日本住友製薬(株)	糖尿病診療におけるメトホルミンの位置付けと新たな作用機序	235
バイエル薬品(株)/東日本メディコム(株)/ハイブリッジ(株)/三菱電機インフォメーションシステムズ(株)	これからのかかりつけ薬局におけるアドヒアランスと コミュニケーション～医師の視点から見た薬剤師の可能性～	256
(株)資生堂	高齢者特有のかゆみを予防する	260
ニプロ(株)	僕たち薬剤師依存～やめられますか薬剤師～	231
アストラゼネカ(株)	免疫チェックポイント阻害薬におけるirAEマネジメントの重要性と薬剤師の役割	104
エーザイ(株)	てんかん治療の最前線 ～脳腫瘍、特にグリオーマと抗てんかん薬～	185
(公社)日本薬剤師会	人生100年時代に向けたライフプラン ～安心の老後を迎えるために～	112
第一三共エスファ(株)	より良い服薬指導を目指して(薬歴を利用しよう)	135
武田テバファーマ(株)	「2025年に向けた地域医療連携」 ～外来患者のチーム医療を担う薬局薬剤師の役割～	145
(株)ツムラ	病名でも証でも語れない漢方の実際	175
第一三共(株)	多岐にわたる心房細動治療 ～抗凝固療法からバルーン治療まで～	136
沢井製薬(株)	「付加価値製剤の服薬アドヒアランス」 「エスエーワン配合OD錠T20/T25の製剤設計 ～フィルムコーティングOD錠の有用性～」	195
ファイザー(株)	バイオ医薬品とバイオシミラー	200

一般財団法人 電気安全環境研究所	低周波電磁界の健康リスク評価 －WHOの国際電磁界プロジェクトを中心にして－	150
(株)キュア・アップ	テクノロジーを用いた新しい薬局モデルの展望 ～薬剤師によるモバイルヘルス活用の最新事例～	150

■ブランチセミナー

10月9日(月) 11:30~12:30 (2セミナー)、
11:15~12:15 (1セミナー)、
11:45~12:45 (1セミナー)に開催。

参加者に対し、4テーマ(共催企業6社)、781席のブランチセミナー事前申込を

7月12日(水)より受付開始し、受付終了までに全てのセミナーが満席となった。

【各セミナーの参加者数】

共催企業	演題名	参加者数
参天製薬㈱	緑内障患者さんの視野を守るための服薬指導 ～より確実な点眼を目指して～	330
日経BP社/㈱日経HR	日経DIクイズで学ぼう！ ～あのクイズ出題者がリアルに解説します～	300
アステラス製薬㈱	機能性便秘・便秘型IBSへの新たなアプローチ	230
ヴィープヘルスケア㈱ 塩野義製薬㈱	保険調剤薬局における抗HIV薬処方せん応需に関するポイント	205

6.懇親会

日時：2017年10月8日(日) 19:30~21:30

会場：帝国ホテル東京 孔雀の間

【参加者数】

	事前参加登録	当日参加登録	招待者	合計
懇親会参加者数	639名	89名	384名	1,112名

【懇親会次第】

～ファンファーレ～

歓迎挨拶 大会運営委員長・東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

主催者挨拶 大会長・日本薬剤師会 会長 山本 信夫

乾杯 日本病院薬剤師会 会長 木平 健治

～アトラクション～

次期開催地挨拶 第51回日本薬剤師会学術大会 大会運営委員長

石川県薬剤師会 会長 中森 慶滋

閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 藤田 義人

【資料 1】

平成30年3月末日現在 地区及び職域薬剤師会別 会員数

(人)

地区 薬剤師会	現在会員数				地区 薬剤師会	A	B	賛助	合計
	A	B	賛助	合計					
千代田区	87	10		97	西多摩	119	37		156
日本橋	35	18	1	54	八王子市	160	152		312
京 橋	51	8	3	62	南多摩	120	65	2	187
港 区	118	20	3	141	町田市	115	38		153
新宿区	153	45		198	府中市	89	5		94
文京区	107	38	2	147	調布市	67	13		80
下 谷	46	14		60	狹江市	26	5		31
浅 草	72	26		98	多摩中央	55	10	1	66
墨田区	103	19		122	北多摩	143	34		177
江東区	133	48	2	183	武藏野市	63	36	1	100
品 川	83	31		114	三鷹市	44	9	1	54
荏 原	70	28	2	100	西 武	224	74		298
目 黒 区	96	26	1	123	中 計	4,478	1,426	36	5,940
大 田 区	219	81	3	303					
世 田 谷	116	25	2	143					
玉川砧	126	47	2	175	職域 薬剤師会	現在会員数			
渋 谷 区	89	11	1	101		A	B	賛助	合計
中 野 区	119	32	2	153	病院	0	238	0	238
杉 並 区	173	74	1	248	都立病院	0	23	0	23
豊 島 区	111	25	1	137	大正製薬	0	4	0	4
北 区	139	20		159	佐藤製薬	0	31	0	31
荒 川 区	84	10		94	エス製薬	0	22	0	22
板 橋 区	201	72		273	小 計	0	318	0	318
練 馬 区	208	76	3	287					
足 立 区	185	46	1	232	直 扱	52	809	24	885
葛 飾 区	156	78	1	235	合 計	4,530	2,553	60	7,143
江 戸 川 区	173	20		193					

平成29年度 地区薬剤師研修会 受講者数

行政 区	地区薬名	受講者数	
		第1回	第2回
千代田区	千代田区	26	29
中央区	日本橋	15	16
	京橋	21	23
港区	港区	31	33
新宿区	新宿区	51	44
文京区	文京区	42	44
台東区	下谷	26	25
	浅草	32	22
墨田区	墨田区	43	35
江東区	江東区	64	59
品川区	品川	42	51
	荏原	26	44
目黒区	目黒区	45	34
大田区	大田区	115	94
世田谷区	世田谷	71	70
	玉川砧	62	81
渋谷区	渋谷区	48	42
中野区	中野区	80	80
杉並区	杉並区	123	132

行政 区	地区薬名	受講者数	
		第1回	第2回
豊島区	豊島区	44	40
北区	北区	51	50
荒川区	荒川区	49	35
板橋区	板橋区	118	108
練馬区	練馬区	128	157
足立区	足立区	67	70
葛飾区	葛飾区	99	84
江戸川区	江戸川区	61	54
多摩第一	多摩中央	24	18
	武藏野	33	31
	三鷹	19	17
多摩第二	府中	22	32
	調布	14	19
	狛江	14	14
多摩第三	北多摩	51	75
	西多摩	30	35
多摩第四	八王子	113	111
	南多摩	57	55
	町田	35	31
多摩第五	西武	70	77

第1回 第2回

合 計		2,062	2,071
-----	--	-------	-------

			36		29		34	
			II-a 地域連携研修会		II-b 無菌調剤室設置施設実地調製研修		III-b 地域包括支援センターと連携した 住民向け講習会	
			場 所	人 数	場 所	人 数	場 所	人 数
1 千代田区								
2 日本橋	中央区立明石町区民館 3・4号室	13名					中央区役所	68名
3 京橋	明石町区民館	16名					中央区休日応急薬局	15名
4 港区	港区立神明いきいきプラザ 集会室A	26名	東京慈恵会医科大学付属病院	4名	赤坂区民センター	46名		
5 新宿区	東新宿保健センター	63名	東京都保健医療公社大久保病	5名				
6 文京区			東部地域病院	4名				
7 下谷	和光堂薬局 2階 会議室	30名					南大门上野駅前ビル	51名
8 浅草	台東区上野区民館	72名	浅草薬剤師会事務所	3名	地域包括支援センター	72名		
9 墨田区	墨田区薬剤師会 事務所	19名	同愛記念病院	24名	清風園、地域包括支援センター	124名		
10 江東区	順天堂東京江東高齢者医療センター	36名	昭和大学江東豊洲病院	7名	江東区総合区民センター	30名		
11 品川	TKP・Lus大森カソナルソセンター	50名			荏原文化センター	402名		
12 草原								
13 目黒区								
14 大田区	石川台商店街事務所	12名	ゆきがや薬局	8名	大田区池上会館	190名		
15 世田谷	三茶しゃれなあどホール オリオン	60名			世田谷区保健センター	33名		
16 玉川砧	三茶しゃれなあどホール オリオン	40名	ファーコス薬局 用賀三丁目	4名	成城ホール	465名		
17 渋谷区	美竹の丘・しぶや	11名						
18 中野区	中野サンプラザ	61名			帝京平成大学	303名		
19 杉並区	杉並保健所 地下講堂	54名	東京都保健医療公社大久保病	9名	杉並障害者福祉会館	12名		
20 豊島区								
21 北区	北とぴあ 7階	60名			赤羽会館	300名		
22 荒川区								
23 板橋区	板橋区立グリーンホール	85名	板橋鈴薬局、板橋区管理センタ	10名	七軒家公園集会所	18名		
24 練馬区	区立産業プラザ ココネリ	60名	練馬光が丘病院	3名	大泉地域包括支援センター	20名		
25 足立区	あだち産業センター	30名	たから薬局 北千住店	4名	帝京科学大学 千住キャンパ	57名		
26 葛飾区	シンフォニーヒルズかつしか	40名	東部地域病院	8名	地域包括支援センター堀切	368名		
27 江戸川区	タワーホール船堀 他	61名	タワーホール船堀、臨海薬	10名	江戸川区医師会、タワーホール船堀	32名		
28 西多摩								
29 八王子	八王子薬剤師研修センター	44名	東京医科大学八王子医療センタ	8名	由井市民センター	43名		
30 南多摩 日野市	ノムラ薬局 本部会議室	10名	ノムラ薬局 豊田南店	5名	七生台地区センター	11名		
31 南多摩 多摩市					さくらが丘在宅サービ	12名		
32 南多摩 稲城市					スセンター			
33 町田市	町田市健康福祉会館	28名	正志会 南町田病院	5名	リハステーション木曽西	15名		
34 狛江市								
35 調布市	調布市民プラザあくろす	30名	杏林大学医学部付属病院	3名	調布市地域包括支援センター	16名		
36 府中市	府中グリーンプラザ	57名	杏林大学医学部付属病院	6名	住吉文化センター	21名		
37 多摩中央 小金井市	多摩中央地区管理センター	7名	杏林大学医学部付属病院	2名	市民交流センター	170名		
38 多摩中央 国分寺市								
39 北多摩 立川市	立川市女性総合センターイム	25名	国立病院機構 災害医療センター	3名	都営立川幸町2丁目アパート	31名		
40 北多摩 昭島市	昭島市朝日町会館	23名	国立病院機構 災害医療センター	2名	明洋工業 会議室	40名		
41 北多摩 国立市	E X A - 1	23名	国立病院機構 災害医療センター	2名	国立市役所	16名		
42 北多摩 東大和市	大和調剤センター	25名	武藏村山病院	7名				
43 北多摩 武藏村山市	武藏村山市市民総合セン	11名	武藏村山病院	6名	介護老人保健施設アルカディア	28名		
44 武藏野市	中央コミュニティセンター	42名	杏林大学医学部付属病院	4名	ゼロワンホール	90名		
45 三鷹市	三鷹市薬剤師会管理センター	34名	杏林大学医学部付属病院	4名	三鷹市薬剤師会 管理センター	50名		
46 西武 西東京市								
47 西武 小平市							美園町公民館、小平市福祉会	212名
48 西武 清瀬市	清瀬市商工会館 2階	17名	明治薬科大学	10名				
49 西武 東村山市	東村山市民ステーション	30名	多摩北部医療センター	11名	東村山市民センター	100名		
50 西武 東久留米市								

平成29年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修「研修会A」地区開催一覧

	共催薬剤師会名	開催日	時間帯	場所	受講者数		受講証明書発行者	募集数	一般会員	1-1 DVD		2-1	2-2(1)	2-2(2)	2-3 演習	まと め	レポート 提出	開催 時間 計	研修会番 号
					受講者数	受講者数				20	30								
	東京都薬剤師会	3月3日	16:00～20：30	TKP東京駅日本橋かづなセントラル	209	都薬	220	6,000	2,000	23	20	20	20	10	115	5	5	265	2017-13-072
1	東京都港区薬剤師会	2月18日	13:00～17：20	慶應義塾大学薬学部芝共立キャンパス	29	都薬	80	6,000	2,000	20	20	30	20	10	115	5	5	260	2017-13-068
2	文京区薬剤師会	2月11日	9:00～13：10	文京区薬剤師会事務所	33	都薬	25	3,000	1,000	20	20	30	20	10	115	10	5	250	2017-13-063
3	大田区薬剤師会	9月9日	16：00～20：25	大田文化の森	17	都薬	30	9,000	3,000	23	20	30	20	10	115	5	5	265	2017-13-044
4	北多摩薬剤師会	2月25日	10：00～15：00	立川ホール4F	49	都薬	50	9,000	3,000	20	20	30	20	10	115	5	5	300	2017-13-064

平成29年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修「研修会B」地区開催一覧

	共開催薬剤師会名	開催日	時間帯	場所	DVD	受講者数		受講証明書発行者	募集数	一般会員	導入	演習	まとめ	レポート作成	開催時間計	研修会番号
						受講者数	受講者数									
	東京都薬剤師会	3月10日	15:45～20：45	TKP神田ビジネスセンター	腰痛	100	都薬	120	6,000	2,000	20	240	5	15	300	2017-13-064
1	新宿区薬剤師会	3月10日	13:00～18：00	東新宿保健センター	腰痛	5	都薬	30	6,000	2,000	20	240	5	15	300	2017-13-068
2	文京区薬剤師会	2月11日	14:00～19：00	文京区薬剤師会事務所	腰痛	19	都薬	24	3,000	1,000	20	240	5	10	300	2017-13-059
3	世田谷薬剤師会	3月11日	13:00～18：00	世田谷薬剤師会会議室	腰痛	9	都薬と世田薬	16	6,000	2,000	20	240	5	20	300	2017-13-066
4	北区薬剤師会	11月23日	10:00～15：30	サンパール荒川	腰痛	10	都薬	20	2,000	1,000	20	240	10	15	330	2017-13-053
5	荒川区薬剤師会															

平成29年度 医薬品・情報管理センター 利用実績

	情 報 業 務	備蓄医薬品 品目数	利 用 薬 局 延 数 年 累 計	利 用 薬 局 実 数 年 累 計	取 扱 品 目 数 年 累 計
1 豊 島 区	実施 (2, 251)	1, 859	3, 098	696	15, 642
2 大 田 区	実施 (実績不明)	0			
3 立 川 地 区	実施 (実績不明)	0			
4 江 戸 川 区	実施 (実績不明)	0			
5 荒 川 区	実施 (実績不明)	0			
6 武 蔵 野	実施 (316)	1, 882	8, 697	596	27, 841
7 杉 並 区	実施 (925)	1, 440	7, 654	1, 323	21, 605
8 練 馬 区	実施 (54)	1, 531	12, 603	1, 916	37, 319
9 日 野	実施 (実績不明)	0			
10 世 田 谷 区	実施 (13)	3, 400	18, 368	1, 292	135, 419
11 中 野 区	実施 (実績不明)	816	1, 409	422	4, 138
12 北 区	実施 (実績不明)	1, 264	3, 949	882	11, 554
13 三 鷹 地 区	実施 (55)	2, 338	7, 804	608	22, 792
14 目 黒 区	実施 (実績不明)	2, 246	3, 704	580	12, 656
15 港 区	実施 (実績不明)	0			
16 品 川 区	実施 (実績不明)	339	1, 370	416	3, 741
17 町 田 地 区	実施 (実績不明)	0			
18 千 代 田 区	実施 (実績不明)	0			
19 文 京 区	実施 (実績不明)	0			
20 板 橋 区	実施 (178)	1, 733	15, 875	1, 427	45, 796
21 八 王 子	実施 (実績不明)	0			
22 江 東 区	実施 (226)	1, 044	801	376	1, 433
23 渋 谷 区	実施 (実績不明)	0			
24 台 東 区	実施 (実績不明)	0			
25 葛 飾 区	実施 (実績不明)	0			
26 西 武 地 区	実施 (実績不明)	254	676	300	913
27 墨 田 区	実施 (実績不明)	1, 196	5, 881	830	5, 344
28 新 宿 区	実施 (11)	1, 212	1, 596	441	2, 795
29 中 央 区	実施 (実績不明)	0			
30 足 立 区	実施 (1, 883)	1, 774	1, 494	321	1, 997
31 京 王 地 区	実施 (実績不明)	0			
32 西 多 摩 地	実施 (実績不明)	0			
33 多 摩 中 心	実施 (実績不明)	0			
合 計		24, 328	94, 979	12, 426	350, 985

地区薬剤師会	幼稚園			小学校			中学校			全日制高等学校			定時制高等学校			特別支援学校			高等専門学校			合計
	公立校	国立校	私立校	公立校	国立校	私立校	公立校	国立校	私立校	公立校	国立校	私立校	公立校	国立校	私立校	公立校	国立校	私立校	公立校	国立校	私立校	
千代田区	6	0	0	8	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
日本橋	3	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
京橋	10	0	0	11	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
港区	12	0	0	18	0	0	10	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	43
新宿区	24	0	0	29	0	0	10	0	0	4	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	69
文京区	5	1	0	8	1	0	5	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	24
小石川	5	0	0	12	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
下谷	0	0	0	8	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
浅草	0	0	0	11	0	0	3	0	0	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	20
墨田区	7	0	0	25	0	0	10	0	0	5	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	49
江東区	20	0	0	45	0	0	23	0	0	8	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	102
品川	7	0	0	21	0	0	9	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	40
荏原	2	0	0	16	0	0	6	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	28
目黒区	3	0	0	22	0	0	10	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39
大田区	0	0	0	59	0	0	28	0	0	7	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	100
世田谷	0	0	0	29	0	0	14	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	46
玉川砧	0	0	0	33	0	0	16	0	0	8	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	62
渋谷区	2	0	0	18	0	0	8	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31
中野区	2	0	0	23	0	0	13	0	0	5	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	46
杉並区	6	0	0	41	0	0	23	0	0	6	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	81
豊島区	3	0	1	22	0	0	8	0	2	2	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	43
北区	5	0	0	35	0	0	12	0	0	3	0	0	2	0	0	5	0	0	0	0	0	62
荒川区	9	0	0	24	0	0	10	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	46
板橋区	2	0	0	52	0	0	23	0	0	7	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	88
練馬区	3	0	0	65	0	0	34	0	0	9	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	114
足立区	0	0	0	69	0	0	36	0	0	9	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	120
葛飾区	3	0	0	49	0	0	24	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	88
江戸川区	2	0	0	71	0	0	33	0	0	7	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	118
福生市	0	0	0	7	0	0	3	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	14
青梅市	0	0	0	19	0	0	11	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	34
あきる野	0	0	0	10	0	0	6	0	0	3	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	21
八王子市	0	0	0	70	0	0	38	0	0	7	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	119
日野市	0	0	0	17	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
稲城市	0	0	0	12	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
多摩市	0	0	0	18	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27
町田市	0	0	0	42	0	0	20	0	0	6	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	70
狛江市	0	0	0	6	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
調布市	0	0	0	20	0	0	8	0	1	3	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	35
府中	1	0	0	22	0	0	11	0	0	5	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	42
国分寺市	0	0	0	10	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
小金井市	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
東大和市	0	0	1	10	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
国立市	0	0	1	8	0	1	3	0	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	18
武蔵村山市	0	0	0	9	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
昭島市	0	0	1	13	0	0	6	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
立川市	0	0	0	20	0	0	10	0	0	2	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	35
武藏野市	0	0	2	12	0	0	8	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
三鷹市	0	0	0	15	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
小平市	0	0	2	19	0	1	8	0	1	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	36
清瀬市	0	0	0	9	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	16
東久留米市	0	0	0	13	0	0	7	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	23
西東京市	0	0	0	18	0	0	9	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	31
東村山市	0	0	0	15	0	0	8	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	28

合計 142 1 8 1,260 1 2 597 1 5 157 0 9 49 0 0 53 0 0 0 0 0 2,285

*地区で担当学校薬剤師を把握している学校数（1人で複数校を担当している場合あり）